大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）
による就学支援の対象機関となる大学等（確認大学等）について

令和　２　年　６月　30 日
学校法人　龍　馬　学　園
理 事 長　佐　竹　新　市

（私立専門学校）

確認大学等の名称	龍馬看護ふくし専門学校
確認大学等の所在地	高知県高知市北本町 1-5-3
設置者の名称	学校法人　龍馬学園
設置者の主たる事務所の所在地	高知県高知市北本町 1-12-6
備考	

様式第１号

令和　２年　６月23日

高知県知事　濵田　省司　殿

学校法人　龍馬学園

理 事 長　佐竹　新市

大学等における修学の支援に関する法律第７条第１項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	龍馬看護ふくし専門学校
大学等の種類 （いずれかに○を付すこと）	（大学・短期大学・高等専門学校・専門学校）
大学等の所在地	高知県高知市北本町１丁目５番３号
学長又は校長の氏名	校長　　野町　裕
設置者の名称	学校法人　龍馬学園
設置者の主たる事務所の所在地	高知県高知市北本町１丁目12番６号
設置者の代表者の氏名	理事長　　佐竹　新市
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/rnw/r-application.pdf

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点（☑）を付けて下さい。

□　確認申請
　大学等における修学の支援に関する法律施行規則第５条第１項に基づき確認申請書を提出します。

☑　更新確認申請
　大学等における修学の支援に関する法律施行規則第５条第３項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点（☑）を付けて下さい。

☑　この申請書（添付書類を含む。）の記載内容は、事実に相違ありません。

☑　確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律（以下「大学等修学支援法」という。）に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

☑　大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

☑　申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第７条第２項第３号及び第４号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第１号	事務局長　加島　玲子	088-825-1800	kashima@ryoma.ac.jp
第２号の１	校長　　野町　裕	088-825-1800	nomachi@ryoma.ac.jp
第２号の２	企画室長　福重　忠司	088-825-3305	hukujyu@ryoma.ac.jp
第２号の３	校長　　野町　裕	088-825-1800	nomachi@ryoma.ac.jp
第２号の４	総務部長　西網　将司	088-825-0900	nishiami@ryoma.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☑）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

☑　実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

☑　《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

□　《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

☑　客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

☑　実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

☑　《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

様式第２号の１－②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	龍馬看護ふくし専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科	夜・通信	53 単位	9 単位	
	医療事務・医療秘書学科	夜・通信	340 単位時間	160 単位時間	
教育・社会福祉専門課程	子ども未来学科	夜・通信	91 単位	6 単位	
	福祉保育学科	夜・通信	※1　118 単位 ※1　155 単位	9 単位	
（備考）※1　選択科目による違い					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/rnw/list/r-career.pdf

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	龍馬看護ふくし専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

http://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/directors.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	学校法人穴吹学園専務理事	2020/5/28 ～ 2022/5/（次々回の理事会開催日）	学校経営に関する意見交換及びノウハウの共有
非常勤	宮地電機株式会社代表取締役社長	2020/5/28 ～ 2022/5/（次々回の理事会開催日）	民間企業が必要とする人材育成に関するアドバイス
（備考）			

様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	龍馬看護ふくし専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

専門分野における知識・技術動向や産業界（企業）の状況について業界の関係者から意見交換を行う場として、「教育課程編成委員会」を組織している。この委員会では授業内容や教育指導方法、評価方法等について検討を行い、実践的な職業教育の在り方を提言していただいている。

具体的には同委員会の審議内容をカリキュラムに反映させるため学科内でカリキュラム編成会議を行い、産業界の意見や動向を見据えた教育内容となるように改善を行っている。また、人材育成像、教育目標と照らし合わせてカリキュラム体系の整合性がとれているかどうか、学生の立場から学習内容が段階的で無理なく系統だった内容となっているかどうかなどの検討を行っている。

シラバスの作成においては履修科目の概要を理解させ、学生が学修するに当たり身に付けるべき知識や能力を明確にしている。また学生の学びの指針を示し学習意欲を高められるように工夫している。

さらにシラバスに適切な評価基準を設定するに当たり教育目標（学習目標）と照らし合わせて、知識やスキルがどの程度達成されたか、数量的あるいは具体的な行動指針を示し評価が行えるようシラバスに反映させており、教員と学生が到達目標を共有できるように配慮している。このシラバスは前年度末に作成し次年度始めに学生に配布している。また外部の方にも教育内容を知っていただくためにホームページ上に公表している。

授業計画書の公表方法	http://www.ryoma.ac.jp/disclosure/rnw.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の成績評価については、学則に規定した以下の評価基準によるものとしている。 （１）授業科目の学修成績評価は、特別な場合を除いて当該授業科目の終了する学期末に行う。 （２）通年の授業科目は、前期末に学生の学修状況を把握するため中途評価を行い、学年末に評価・評定する。 （３）学修成績評価は、講義主体の授業科目では、定期試験を重点に行うが、定期試験に替えて他の方法によることがある。演習や実技を伴う授業科目では、レポート等当該授業科目に適切な方法で評価する。また、臨地実習等の実習授業科目は、実習指導者及び担当教員が実習態度、日誌を含む諸記録及びレポート等により総合的に評価する。 （４）出席時数が実授業時数の３分の２に達しない授業科目は、学修成績評価を受けることができない。ただし、看護学科の臨地実習に係る各授業科目の出席時数は、実授業時数の１０割、他の学科の実習に係る各授業科目の出席時数は実授業時数の９割以上とし、出席時数が規定に満たないときは補充実習を行う。 （５）学修成績評価は、各授業科目１００点を満点とし、６０点（合格基準点）以上の評価を得た授業科目を合格（授業科目の修得という）とする。 （６）評定値は、記号Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄを用いて表記し、Ａ：８０点以上、Ｂ：７０点以上８０点未満、Ｃ：６０点以上７０点未満、Ｄ：６０点未満又は出席時数が実授業時数の３分の２未満のとき、とする。 （７）評定が「Ｄ」の必履修授業科目は、再履修しなければならない。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

グレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「ＧＰＡ」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0.0

尚、再試験により取得した評価は成績（得点）の結果にかかわらず「C」評価としＧＰの値は「１」とする。

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

（１）看護学科、福祉保育学科、子ども未来学科については（式１）を適用する。

$$（式１）\ ＧＰＡ＝\frac{（ＧＰ×単位数）の総和}{履修科目の総単位数}$$

（２）医療事務・医療秘書学科については（式２）を適用する。

$$（式２）\ ＧＰＡ＝\frac{（ＧＰ×時間数）の総和}{履修科目の総時間数}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/rnw/GPA/r-gpa.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業認定の方針

（１）看護学科

授業や臨地実習により看護知識や専門技術を身に付け、科学的根拠に基づいた看護実践ができる看護師を養成する。また、生命の尊厳を基盤に、専門的職業人として自覚と誇りを持ち、保健医療福祉チームの中で看護の役割を果たし、社会に貢献できる看護師を養成する。

（２）医療事務・医療秘書学科

医療事務（医科、歯科、介護、調剤）だけでなく医療秘書（医師事務作業補助）等、医療機関の事務業務を総合的に学び、医師や病院を支える人材を養成する。また、接遇マナー、電子カルテ・レセプトコンピュータの授業や充実した実習等により、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。

（３）福祉保育学科

保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、子どもの福祉と教育に携わる保育士（幼稚園教諭）を養成する。更に、福祉に関する適切な助言・援助を行う専門職である社会福祉士の受験資格（要実務経験１年）を取得できるようにする。

（４）子ども未来学科

保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、即戦力となる人材として、子どもから慕われる質の高い保育士（幼稚園教諭）を養成する。

卒業の要件については、学則に規定し以下のように定めている。

（１）所定の修業年限以上在籍していること。

（２）教育課程に定める必履修授業科目を全て修得（単位を修得）し、全課程を修了していること。
併せて、福祉保育学科及び子ども未来学科については、連携している近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の課程のうち本校指定科目を全て修得し、修了していること。

（３）欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。

（４）学費を完納していること。

（５）医療事務・医療秘書学科は、上記（１）～（４）に加え、下記に定める検定を取得していること。

必取得検定（２種類）	選択取得検定（３種類）
①　医科医療事務管理士技能認定試験 ②　歯科医療事務管理士技能認定試験 ③　調剤事務管理士技能認定試験 ④　介護事務管理士技能認定試験 ⑤　診療報酬請求事務能力認定試験 上記①の検定及び②～⑤の検定の内１種類とする。	左記以外の検定の内３種類とする。

学期末に卒業認定会議を開き、上記要件を満たしているか確認している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/rnw/credit/r-graduation.pdf

様式第２号の４－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	龍馬看護ふくし専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance1.pdf
収支計算書又は損益計算書	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance2.pdf
財産目録	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance3.pdf
事業報告書	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance4.pdf
監事による監査報告（書）	www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance5.pdf

２．教育活動に係る情報

①－１学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	看護学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	３０１５ 単位時間／単位	1980 時間	236 時間	1035 時間	0 時間	24 時間
			単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
180 人	169 人	0 人	13 人	67 人	81 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業や臨地実習により看護知識や専門技術を身に付け、科学的根拠に基づいた看護実践ができる看護師を養成する。また、生命の尊厳を基盤に、専門的職業人として自覚と誇りを持ち、保健医療福祉チームの中で看護の役割を果たし、社会に貢献できる看護師を養成する。

１年次：基礎的な知識・技術の習得、２年次：実習で現場経験を積む、３年次：現場で必要な実践的技術の習得

成績評価の基準・方法

（概要）

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0.0

（ＧＰＡの算出）

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{(\text{ＧＰ} \times \text{単位数})\text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

（１）進級の要件

ア　授業科目の修得（単位の修得）の基準

臨地実習に関する授業科目を修得していること。
基礎分野に関する当該学年の未修得授業科目の累計が３科目以内であること。
上記以外の未修得授業科目の累計が４科目以内であること。

イ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。

ウ　特別な事情を除き学費を完納していること。

（２）卒業の要件

ア　所定の修業年限以上在籍していること。

イ　教育課程に定める必履修授業科目を全て修得（単位を修得）し、全課程を修了していること。

ウ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。

エ　学費を完納していること。

学修支援等

（概要）

・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。
・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。
・就職支援部と協力した就職指導。
・個別面談、保護者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
64 人 (100%)	1 人 (1.5%)	63 人 (98.4%)	人 (%)

（主な就職、業界等）
病院

（就職指導内容）
進路相談、書類作成指導、適宜面接指導

（主な学修成果（資格・検定等））
看護師国家試験　58 名合格

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
187 人	7 人	3.7%

（中途退学の主な理由）
進路変更、意欲不足、経済的理由、体調不良

（中退防止・中退者支援のための取組）
個人ガイダンス、保護者面談

①－２学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	医療事務・医療秘書学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	１７５１ 単位時間／単位	1,182 時間	444 時間	125 時間	0 時間	0 時間
			単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	25人	0人	2人	4人	6人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

医療事務（医科、歯科、介護、調剤）だけでなく医療秘書（医師事務作業補助）等、医療機関の事務業務を総合的に学び、医師や病院を支える人材を養成する。また、接遇マナー、電子カルテ・レセプトコンピュータの授業や充実した実習等により、即戦力として活躍できる人材の育成を目指す。

１年次：基礎的な知識・技術の習得、２年次：現場で必要な実践的技術の習得

成績評価の基準・方法

（概要）

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0.0

（ＧＰＡの算出）

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{\text{（ＧＰ×時間数）の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

（１）進級の要件

ア　授業科目の修得（単位の修得）の基準

未修得授業科目が２科目以内であること。

イ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。

ウ　特別な事情を除き学費を完納していること。

（2）卒業の要件

ア　所定の修業年限以上在籍していること。

イ　教育課程に定める必履修授業科目を全て修得（単位を修得）し、全課程を修了していること。

ウ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。

エ　学費を完納していること。

オ　下記に定める検定を取得していること。

必取得検定（２種類）	選択取得検定（３種類）
①　医科医療事務管理士技能認定試験 ②　歯科医療事務管理士技能認定試験 ③　調剤事務管理士技能認定試験 ④　介護事務管理士技能認定試験 ⑤　診療報酬請求事務能力認定試験 上記①の検定及び②～⑤の検定の内１種類とする。	左記以外の検定の内３種類とする。

必取得検定の一部が取得困難な者に、当該必取得検定の取得免除措置をとることができる。

学修支援等

（概要）

・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。
・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。
・就職支援部と協力した就職指導。
・個別面談、保護者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
９人 （100%）	人 （　　%）	９人 （　100%）	人 （　　%）

（主な就職、業界等）
医療、福祉、情報通信

（就職指導内容）
医療関係（病院、調剤薬局等）、履歴書指導、面接指導、筆記試験対策

（主な学修成果（資格・検定等））
診療報酬請求事務能力認定試験　６名合格、
医科医療事務管理士技能認定試験　９名合格

（備考）（任意記載事項）学科名を変更したため、旧学科医療事務学科の情報になる。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人ガイダンス、保護者面談		

① －３学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	福祉保育学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	３４０５ 単位時間／単位	1125 時間	1200 時間	630 時間	0 時間	450 時間
			単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	41 人	0 人	6 人	33 人	39 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、子どもの福祉と教育に携わる保育士（幼稚園教諭）を養成する。更に、福祉に関する適切な助言・援助を行う専門職である社会福祉士の受験資格（要実務経験１年）を取得できるようにする。

１年次：基礎的な知識・技術の習得、２年次：実習で現場経験を積む、３年次：現場で必要な実践的技術の習得

成績評価の基準・方法

（概要）

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0.0

（ＧＰＡの算出）

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{(\text{ＧＰ} \times \text{単位数})\ \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

（１）進級の要件

ア　授業科目の修得（単位の修得）の基準

未修得授業科目の累計が２科目以内であること。ただし、近畿大学九州短期大

学通信教育部保育科の面接授業科目は適用しない。
イ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。
ウ　特別な事情を除き学費を完納していること。
（２）卒業の要件
ア　所定の修業年限以上在籍していること。
イ　教育課程に定める必履修授業科目を全て修得（単位を修得）し、全課程を修了していること。連携している近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の課程のうち本校指定科目を全て修得し、修了していること。
ウ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。
エ　学費を完納していること。

学修支援等

（概要）
・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。
・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。
・就職支援部と協力した就職指導。
・個別面談、保護者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
９人 (100%)	０人 (　0%)	９人 (　100%)	０人 (　0%)

（主な就職、業界等）
保育所、認定子ども園、社会福祉施設

（就職指導内容）
社会的マナーの習得・実践、言葉遣い、面接対応

（主な学修成果（資格・検定等））
保育士資格　９名、幼稚園教諭二種免許　９名、社会福祉主事任用資格９名

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
42人	4人	9.5%

（中途退学の主な理由）
進路変更のため

（中退防止・中退者支援のための取組）
個人ガイダンス、保護者面談

① －４学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	子ども未来学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	２０５５ 単位時間／単位	930 時間	510 時間	360 時間	０時間	255 時間
			単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	57人	0人	6人	33人	39人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・養護施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、即戦力となる人材として、子どもから慕われる質の高い保育士（幼稚園教諭）を養成する。

１年次：基礎的な知識・技術の習得、２年次：現場で必要な実践的技術の習得

成績評価の基準・方法

（概要）

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0.0

（ＧＰＡの算出）

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$\text{ＧＰＡ} = \frac{(\text{ＧＰ} \times \text{単位数})\ \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

（１）進級の要件

ア　授業科目の修得（単位の修得）の基準

未修得授業科目の累計が２科目以内であること。ただし、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の面接授業科目は適用しない。

イ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。
ウ　特別な事情を除き学費を完納していること。
（２）卒業の要件
ア　所定の修業年限以上在籍していること。
イ　教育課程に定める必履修授業科目を全て修得（単位を修得）し、全課程を修了していること。連携している近畿大学九州短期大学通信教育部保育科の課程のうち本校指定科目を全て修得し、修了していること。
ウ　欠席日数（公欠を除く）が出席すべき日数の３分の１を超えていないこと。
エ　学費を完納していること。

学修支援等

（概要）
・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。
・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。
・就職支援部と協力した就職指導。
・個別面談、保護者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)

（主な就職、業界等）
保育所、認定子ども園、社会福祉施設

（就職指導内容）
社会的マナーの習得・実践、言葉遣い、面接対応

（主な学修成果（資格・検定等））
保育士資格　22 名、幼稚園教諭二種免許　22 名、社会福祉主事任用資格　22 名

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59 人	7 人	11.9%

（中途退学の主な理由）
進路変更のため

（中退防止・中退者支援のための取組）
個人ガイダンス、保護者面談

②学校単位の情報

a）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他（教育充実費）	備考（任意記載事項）
看護学科	100,000円	740,000円	230,000円	実習費　60,000円
医療事務・医療秘書学科	100,000円	740,000円	220,000円	
福祉保育学科	100,000円	740,000円	220,000円	実習費　109,000円
子ども未来学科	100,000円	740,000円	220,000円	実習費　109,000円
修学支援（任意記載事項）				

b）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/info/RNW-2018tenken.pdf
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
学校関係者評価委員会では、実践的な職業教育の質を確保するため教育活動及び学校運営の状況を把握し意見交換等を通じて、本校の自己評価の結果を客観的に評価し、改善点を見出すことを目的としており、学外の専門領域に関する有識者等で構成し実施している。 評価結果の活用方法としては、教育内容に関しては教育課程編成委員会（実施責任機関）に反映させて、カリキュラム検討委員会にて新たなカリキュラムの改善を図っている。 その他学校運営に関することは自己点検委員にて運営委員会議及び職員会議等で方策・改善点等を検討し、学校運営全体の品質向上に努めている。 委員会を構成する委員は、５名以上とし、本校の職員以外の者で、保護者・本校の卒業生・地域住民・地元企業関係者・高等学校関係者・その他教育に関する有識者のうちから、校長が委嘱する。
学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
特定非営利活動法人　児童・障害児（者）相談支援ネットワーク高知　理事	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	有識者
にしもり薬局　代表取締役	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	企業関係者
愛宕病院　看護部長	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	関係施設の役職員
学校法人やまもも学園　芸術学園　園長	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	関係施設の役職員
高知厚生病院　事務部長	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	卒業生
幼保連携型認定こども園　桜井幼稚園　園長	2020年4月1日～2022年3月31日（2年）	関係施設の役職員
学校関係者評価結果の公表方法		

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.ryoma.ac.jp/info/RNW-2018hyoka.pdf
第三者による学校評価（任意記載事項）

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.ryoma.ac.jp/rnw/index.html

（別紙）

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が１人以上 10 人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が０人の場合には、「0 人」と記載すること。

学校名	高知情報ビジネス＆フード専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		０人	０人	０人
内訳	第Ⅰ区分	０人	０人	
	第Ⅱ区分	０人	０人	
	第Ⅲ区分	０人	０人	
家計急変による支援対象者（年間）				０人
合計（年間）				０人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	０人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	０人	０人	０人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	０人	０人	０人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	０人	０人	０人
「警告」の区分に連続して該当	０人	０人	０人
計	０人	０人	０人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	０人	前半期	０人	後半期	０人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	０人
３月以上の停学	０人
年間計	０人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	０人
訓告	０人
年間計	０人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	０人	０人	０人
ＧＰＡ等が下位４分の１	０人	０人	０人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	０人	０人	０人
計	０人	０人	０人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☑）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

☑ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

☑ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

☑ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

□ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

☑ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

☑ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）【再掲】

その他

☑ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料

☑ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

実務経験のある教員等による授業科目一覧

看護学科1年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
国語表現	1	30	―	○	大石
教育学	1	30	―	○	岡谷
日常英語	2	45	―	○	クレィグ
心理学	2	45	―	○	馬場園・山崎
人間関係論	1	30	―	○	寺村
レクリェーション	1	30	―	○	鈴木・森岡
解剖学	2	60	―	○	田口
生理学	2	60	―	○	村田
人体のしくみ	1	15	―	○	栗田
栄養学	1	30	―	○	津野・大坪
微生物学	1	30	―	○	由利
薬理学	1	30	―	○	沖本
病理学	1	30	―	○	由利
病態学　Ⅰ	1	30	―	○	宇都宮・長田・植田
病態学　Ⅱ	1	30	―	○	植田・川口
病態学　Ⅲ	1	30	―	○	上村・公文・篠原
病態学　Ⅳ	1	30	―	○	栗坂
看護学概論	1	30	○	○	宮田・森田
看護の基本技術	1	45	○	○	石元
日常生活援助技術	2	60	○	○	宮田
フィジカルアセスメント	1	30	○	○	明神
看護過程	1	45	○	○	岩城
臨床看護総論	2	45	○	○	太田
基礎看護学実習(環境と対象の理解)	1	45	○	○	小松
基礎看護学実習(看護過程の基礎)	2	90	○	○	小松
成人看護学概論	1	30	―	○	寺村
成人看護援助論Ⅰ	2	45	○	○	吉村
成人看護援助論Ⅱ	2	45	○	○	石元
老年看護学概論	1	30	―	○	下村
老年看護援助論	1	30	○	○	岡部
総時間数	39	1,155	16		

看護学科2年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
統計学	1	30	―	○	井上
情報科学	1	30	○	○	吉井
家族社会学	1	30	―	○	山岡
人権の理解と行動	1	30	―	○	前田・山崎
病態学 Ⅴ	1	15	―	○	大崎・安宅
病態学 Ⅵ	1	30	―	○	瀬戸・坂本・奥谷・中川・青木
社会福祉	1	30	―	○	近藤
診療補助技術	1	45	○	○	岩城
指導技術	1	15	○	○	下村
看護倫理の基礎	1	15	○	○	岡部
成人看護援助論Ⅲ	1	30	○	○	藤田
老年看護の実際	2	45	○	○	竹内・上島・高芝
母性看護学概論	1	30	○	○	畠中・栗田
母性看護援助論(正常編)	1	30	○	○	畠中・栗田
精神看護学概論	1	15	―	○	坂本
精神看護援助論Ⅰ	1	30	―	○	明神・下司・塩見
精神看護援助論Ⅱ	2	45	○	○	和田
成人看護学実習(急性期・回復期)	3	135	○	○	吉村
成人看護学実習(慢性期・終末期)	3	135	○	○	明神
老年看護学実習(基礎)	2	90	○	○	竹内・上島
老年看護学実習(総合)	2	90	○	○	竹内・上島
在宅看護概論	1	15	―	○	下村
看護研究	1	30	○	○	森田
総時間数	31	990	22		

看護学科3年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
看護英語	1	30	―	○	那須
公衆衛生学	2	45	―	○	元吉
看護関係法規	1	15	―	○	森田
関係法規	1	15	―	○	元吉
医療概論	1	15	―	○	吉川
小児看護学概論	1	30	○	○	前田・寺村
小児看護援助論Ⅰ	1	30	―	○	松下
小児看護援助論Ⅱ	2	45	○	○	前田・岡上
母性看護援助論(異常編)	1	15	―	○	高橋・瀬戸・前田
母性看護技術	1	15	○	○	畠中・栗田
小児看護学実習	2	90	○	○	前田
母性看護学実習	2	90	○	○	畠中
在宅看護援助論	2	45	―	○	下村・井上
在宅看護技術	1	15	○	○	竹内
看護技術の実際	1	30	○	○	大地・上島
看護実践の探求	1	30	○	○	石元
看護管理	1	30	―	○	吉永・伊勢田
災害看護	1	15	―	○	藤戸
在宅看護論実習	2	90	○	○	下村・竹内
統合実習	2	90	○	○	大地
国家試験対策	1	30	―	○	下村・大地
総時間数	28	810	15		

総合計	98	2955	53		

実務経験のある教員等による授業科目一覧

福祉保育学科1年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
英会話Ⅰ	2	30	―	○	クレイグ
健康科学	1	15	○	○	神家
生涯スポーツ	1	30	―	○	本間
情報処理入門Ⅰ	2	30	○	○	福重
日本国憲法	2	30	○	○	竹村
幼児と音楽表現	1	15	○	○	寿美・池本
教育心理学	1	15	○	○	津江
幼児の心理学	1	15	○	○	津江
健康(指導法)	1	15	○	○	神家
人間関係(指導法)	1	15	○	○	山下
教育原理	2	30	○	○	津江
造形表現(指導法)	2	60	○	○	松田
音楽表現(指導法)	1	15	―	○	池本
環境(指導法)	1	15	―	○	寺峰
言葉(指導法)	1	15	○	○	森實
幼児と言葉	1	15	○	○	森實
幼児と人間関係	1	15	○	○	山下
幼児と環境	1	15	―	○	寺峰
社会福祉	2	30	○	○	雑賀
社会的養護Ⅰ	2	30	○	○	岡田
劇あそび(指導法)	1	15	○	○	瀬川
教育課程総論	2	30	○	○	山下
教育方法論	2	30	―	○	馬場園
教職概論	2	30	―	○	竹村
保育内容総論	1	15	○	○	徳弘
音楽(理論)	1	15	―	○	池本
レッスンⅠ	2	60	○	○	野島
音楽[ピアノ]①	1	30	○	○	池本
音楽[声楽]①	1	30	○	○	寿美
保育研究Ⅰ	1	30	○	○	瀬川
実習指導Ⅰ	1	15	○	○	野島
ベーシックコミニュケーション・親学	2	30	○	○	清藤・野島
児童文化	2	30	○	○	山下
保健医療サービス	2	30	○	○	弘嶋
心理学理論と心理的支援	2	30	○	○	津江
現代社会と福祉	4	60	○	○	雑賀
福祉行財政と福祉計画	2	30	○	○	山中
就労支援サービス	1	15	○	○	西村
総時間数	57	975	46		

福祉保育学科2年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による	シラバス	教員
音楽表現技術	1	15	○	○	寿美・池本
幼児と造形表現	1	15	○	○	松田
幼児と健康	1	15	○	○	神家
子ども家庭福祉	2	30	○	○	岡田
保育原理	2	30	○	○	清岡
社会的養護Ⅱ	1	15	○	○	岡田
子ども家庭支援論	2	30	○	○	岡田
幼児への特別な支援	1	15	○	○	市川
障害児保育	1	15	○	○	市川
子どもの食と栄養	2	30	○	○	津野
子育て支援	1	15	○	○	雑賀
子どもの保健	2	30	○	○	岡上
子ども家庭支援の心理学	2	30	○	○	高野
教育相談	2	30	○	○	竹村
図画工作Ⅱ	1	45	○	○	松田
幼児体育Ⅱ	1	15	○	○	神家
保育実習Ⅰ(保育所)	2	90	○	○	徳弘
保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	1	15	○	○	徳弘
レッスンⅡ	2	60	○	○	清岡
音楽[ピアノ]②	1	30	○	○	池本
音楽[声楽]②	1	30	○	○	寿美
保育研究Ⅱ	2	60	○	○	徳弘
実習指導Ⅱ	2	30	○	○	清岡
保育総論	4	60	○	○	徳弘
パソコン演習Ⅰ	1	30	○	○	吉井
介護技術入門	1	15	○	○	和田
社会保障	4	60	―	○	山岡
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	30	○	○	岡田
保育コース合計	46	885	42		
社会調査の基礎	2	30	○	○	高野
相談援助の基盤と専門職	4	60	○	○	近藤
相談援助演習①	2	60	○	○	土居
相談援助実習指導①	4	60	○	○	岡田
社会福祉コース合計	58	1,095	54		

福祉保育学科3年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による	シラバス	教員
発達心理学	2	30	○	○	津江
相談援助	1	15	○	○	雑賀
教育実習事前事後指導	1	15	○	○	野島
教育実習	4	180	○	○	野島
保育・教職実践演習	2	30	○	○	野島
乳児保育	2	30	○	○	弘田
子どもの保健Ⅱ	1	15	○	○	畠中
保育実習Ⅰ(施設)	2	90	○	○	徳弘
保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	1	15	○	○	徳弘
保育実習Ⅱ	2	90	○	○	徳弘
保育実習事前事後指導Ⅱ	1	15	○	○	徳弘
レッスンⅢ	1	30	○	○	池本
音楽一般	1	30	—	○	池本
保育研究Ⅲ	1	15	○	○	瀬川
実習指導Ⅲ	2	30	—	○	池本
教育課程	2	30	○	○	山下
卒業研究	2	75	—	○	池本
パソコン演習Ⅱ	1	30	○	○	吉井
青年心理学	2	30	○	○	津江
高齢者に対する支援と介護保険制度	4	60	○	○	土居
保育コース合計	35	855	30		
相談援助の理論と方法	8	120	○	○	土居
地域福祉の理論と方法	4	60	○	○	弘嶋
低所得者に対する支援と生活保護制度	2	30	○	○	近藤
福祉サービスの組織と経営	2	30	○	○	弘嶋
相談援助演習②	3	90	○	○	土居
相談援助実習指導②	2	30	○	○	岡田
相談援助実習	4	180	○	○	岡田
社会福祉コース合計	60	1,395	55		
合計 保育コース	138	2,715	118		
合計 社会福祉コース	175	3,465	155		

実務経験のある教員等による授業科目一覧

子ども未来学科1年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
英会話Ⅰ	2	30	―	○	クレイグ
健康科学	1	15	○	○	神家
生涯スポーツ	1	30	―	○	本間
情報処理入門Ⅰ	2	30	○	○	福重
日本国憲法	2	30	○	○	竹村
幼児と音楽表現	1	15	○	○	大野・寿美
教育心理学	1	15	○	○	津江
幼児の心理学	1	15	○	○	津江
幼児と言葉	1	15	○	○	森實
幼児と人間関係	1	15	○	○	山下
幼児と環境	1	15	○	○	寺峰
健康(指導法)	1	15	○	○	神家
人間関係(指導法)	1	15	○	○	山下
教育原理	2	30	○	○	津江
造形表現(指導法)	2	60	○	○	松田
音楽表現(指導法)	1	15	○	○	池本
環境(指導法)	1	15	―	○	寺峰
言葉(指導法)	1	15	○	○	森實
社会福祉	2	30	○	○	細川
音楽(理論)	1	15	―	○	池本
劇遊び(指導法)	1	15	○	○	瀬川
教育課程総論	2	30	○	○	山下
教育方法論	2	30	―	○	馬場園
教職概論	2	30	―	○	竹村
ベーシックコミュニケーション・親学	1	30	○	○	清藤・野島
保育内容総論	1	15	○	○	徳弘
児童文化	2	30	○	○	山下
レッスンⅠ	2	60	○	○	徳弘
保育研究	2	30	○	○	徳弘
音楽レッスンⅠ(ピアノ)	1	30	○	○	大野
音楽レッスンⅠ(声楽)	1	30	○	○	寿美・大野
乳児保育Ⅰ	2	30	○	○	弘田
社会的養護Ⅰ	2	30	○	○	岡田
保育実習指導Ⅰ(保育所)	2	30	○	○	徳弘
保育実習Ⅰ(保育所)	2	90	○	○	徳弘
総時間数	51	945	42		

子ども未来学科2年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
音楽表現技術	1	15	○	○	大野・寿美
幼児と造形表現	1	15	○	○	松田
幼児と健康	1	15	○	○	神家
図画工作Ⅱ	1	45	○	○	松田
子ども家庭福祉	2	30	○	○	岡田
保育原理	2	30	○	○	清岡
幼児体育Ⅱ	1	15	○	○	神家
子ども家庭支援論	2	30	○	○	岡田
障害児保育	1	15	○	○	市川
幼児への特別な支援	1	15	○	○	市川
子どもの食と栄養	2	30	○	○	津野
子どもの保健	2	30	○	○	岡上
保育の心理学	2	30	―	○	野中
子ども家庭支援の心理学	2	30	○	○	高野
教育実習	4	180	○	○	野島
教育相談	2	30	○	○	竹村
保育・教職実践演習	2	30	○	○	野島
教育実習事前事後指導	1	15	○	○	野島
パソコン演習	2	30	○	○	吉井
社会的養護Ⅱ	2	15	○	○	岡田
子育て支援	1	15	○	○	雑賀
子どもの健康と安全	1	15	○	○	栗田
青年心理学	2	30	○	○	津江
レッスンⅡ	1	30	○	○	徳弘
音楽レッスンⅡ(ピアノ)	1	30	○	○	大野
音楽レッスンⅡ(声楽)	1	30	○	○	寿美
教育実習指導	1	15	○	○	山下
言語表現	1	15	○	○	森實
言葉Ⅱ	1	15	―	○	大石
乳児保育Ⅱ	1	15	○	○	弘田
保育実習指導Ⅰ(施設)	1	15	○	○	山下
保育実習Ⅰ(施設)	1	90	○	○	山下
卒業研究	2	45	○	○	山下
保育実習Ⅱ	2	90	○	○	山下
保育実習指導Ⅱ	1	15	○	○	山下
総時間数	52	1,110	49		

総合計	103	2,055	91		

実務経験のある教員等による授業科目一覧

医療事務・医療秘書学科1年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
医療事務		388	―	○	竹内
調剤事務		83	―	○	片岡
医事コンピュータ理論		15	○	○	竹内
医事コンピュータ実習Ⅰ		66	○	○	竹内
医療クラーク		45	―	○	竹内
医学一般		30	―	○	竹内
パソコン実習Ⅰ		84	○	○	佐々木
秘書		64	―	○	片岡
接遇・マナー		30	―	○	片岡
手話		45	○	○	前田
就職実務		56	―	○	竹内
病院実習		45	―	○	竹内
総時間数	0	951	210		

医療事務・医療秘書学科2年

授業科目	単位	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
医療事務		270	―	○	片岡
歯科事務		90	―	○	西本
介護事務		72	○	○	西本
医事コンピュータ実習Ⅱ		73	―	○	片岡
医療クラーク		24	―	○	竹内
パソコン実習Ⅱ		58	○	○	西本
接遇・マナー		30	―	○	片岡
就職実務		45	―	○	片岡
ホスピタリティ演習		58	―	○	片岡
病院実習		80	―	○	片岡
総時間数	0	800	130		

総合計	**0**	**1,751**	**340**		

授業科目	看護の基本技術	単位／時間	１／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	畠中ゆかり・吉村知加 小松美奈子 石元美佐
授業の目的・テーマ	看護実践の基礎となる基本技術を習得できる。		
授業の到達目標	看護実践の基礎となる基本技術の根拠、手順、実践方法を習得する。		

授業の計画				
	1	看護技術と習得の仕方（Ⅱ．序章）	26	看護記録の構成、経過記録、報告
	2	活動・休息援助技術（Ⅱ．第4章）	27	〃
	3	基本的活動の援助	28	ＳＯＡＰの方法
	4	基本的活動の基礎(姿勢とADLとボディメカニクス)	29	〃
	5	体位（体位と体位変換）	30	包帯法（Ⅱ．第8章　創傷管理技術）
	6	〃	31	〃
	7	移動（水平移動）	32	感染防止の技術（Ⅱ．第13章）
	8	〃（側臥位への移動）	33	感染防止の基礎知識
	9	〃（座位・端座位への移動）	34	標準予防策
	10	〃	35	感染経路別予防策
	11	移乗・移送（車椅子・ストレッチャー）	36	洗浄・消毒・滅菌
	12	〃	37	ガウンテクニック
	13	苦痛の緩和・安楽確保の技術（Ⅱ．第5章）	38	〃
	14	体位保持	39	無菌操作
	15	罨法	40	〃
	16	コミュニケーション（Ⅰ．第1章）	41	〃
	17	コミュニケーションの意義と目的	42	滅菌手袋の着脱
	18	コミュニケーションの基本と実際	43	〃
	19	〃（グループワーク）	44	〃
	20	看護過程展開の技術（Ⅰ．第3章）	45	試験
	21	観察　目的、方法、機会、手段	46	
	22	〃　観察の視点と内容	47	
	23	〃　主観的情報と客観的情報	48	
	24	看護記録	49	
	25	看護記録とは　記載・管理いおける留意	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）、看護技術がみえる①　②（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）
評価の方法や基準	筆記試験、授業・演習態度を総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、看護の基本技術に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	特にはないが、上記「評価の方法や基準」欄の記載内容を理解しておくこと。

授業科目	診療補助技術	単位／時間	１／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	川添悦子、福岡良子、田村收代、森本紗磨美、岩城ゆかり
授業の目的・テーマ	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得できる。		
授業の到達目標	診断・治療過程にある対象の援助に必要な知識・技術・態度を習得する。		

授業の計画				
	1	診察・検査・処置の介助技術（第12章） 診察の介助　（川添）	26	体温管理の技術（岩城）
	2	診察・処置の介助	27	末梢循環促進ケア
	3	検査の介助	28	与薬の技術（第9章）　与薬の基礎知識
	4	〃	29	経口与薬・口腔内与薬
	5	〃	30	吸入
	6	症状・生体機能管理技術（第11章）検体検査	31	点眼　点鼻
	7	検体検査	32	経皮的与薬　直腸内与薬
	8	〃	33	注射
	9	生体情報モニタリング	34	〃
	10	〃	35	〃
	11	〃	36	〃
	12	手術後患者の看護（第9章）ドレーンの管理	37	〃
	13	ドレーンの管理	38	〃
	14	〃	39	輸血管理
	15	〃	40	創傷管理技術（第8章）　創傷管理の基礎技
	16	呼吸・循環を整える技術（第7章）　（森本）	41	創傷処置
	17	酸素吸入療法（酸素療法）	42	褥瘡予防
	18	〃	43	死の看取りの援助（第15章） 死にゆく人と周囲の人々へのケア（川添）
	19	排痰ケア	44	〃
	20	〃	45	試験
	21	持続吸引（胸腔ドレナージ）	46	
	22	〃　（川添）	47	
	23	吸入	48	
	24	〃	49	
	25	人工呼吸療法　（川添）	50	

授業の方法	講義、技術演習、グループワーク演習等を交えながら楽しい授業を目指す。
テキスト/参考文献	基礎看護技術Ⅱ　臨床外科総論　呼吸器（成人看護学②）皮膚（成人看護学⑫）（医学書院）
評価の方法や基準	レポート、演習態度、筆記試験・実技試験などを総合的に評価する。
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、診療補助技術に関する基本的知識を講義する。
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」欄を参照すること。

授業科目	小児看護援助論Ⅱ	単位／時間	２／４５時間
開講学科等	看護学科	担当教員	前田　さち・小松　美奈子・岡上　君子
授業の目的・テーマ	健康障害をもつ小児と家族を理解し、健康レベルに応じた援助について理解できる。		
授業の到達目標	上記「授業の目的・テーマ」の内容のレベルに達すること。		

授業の計画				
	1	症状を示す小児の看護：不機嫌・啼泣・痛み(岡上)	26	〃
	2	症状を示す小児の看護：呼吸困難・テアノーゼショック（岡上）	27	検査・処置を受ける小児の看護（岡上）
	3	症状を示す小児の看護：意識障害・けいれん・発熱・嘔吐・下痢（岡上）	28	〃
	4	症状を示す小児の看護：便秘・脱水・浮腫・出血（岡上）	29	〃
	5	症状を示す小児の看護：貧血・発疹・黄疸（岡上）	30	〃
	6	看護各論：先天性疾患、ダウン症候群	31	〃
	7	〃	32	〃
	8	：糖尿病	33	事故・外傷と看護
	9	〃	34	子どもの虐待と看護
	10	〃	35	〃
	11	：若年性関節リュウマチ	36	障害のある子どもと家族の看護（前田）
	12	：気管支喘息、肺炎	37	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護（前田）
	13	〃	38	事例検討・看護過程（前田）
	14	：川崎病	39	〃
	15	：ファロー四徴症	40	〃
	16	〃	41	〃
	17	：イレウス、鎖肛	42	〃
	18	〃	43	〃
	19	：肥厚性幽門狭窄症、腸重積症	44	〃
	20	：腎疾患	45	試験
	21	〃	46	
	22	〃	47	
	23	：てんかん	48	
	24	：血液疾患	49	
	25	〃	50	

授業の方法	講義　グループワーク　演習
テキスト/参考文献	系統看護学講座　小児看護学概論　小児臨床看護総論、小児臨床看護各論（医学書院）
評価の方法や基準	筆記試験、課題 等,　総合評価
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	医療現場での看護業務
実務経験の活かし方	看護師業務に携わった経験を持つ教員が、小児看護援助論に関する基本的知識を講義する
履修上の注意事項	上記「評価の方法や基準」の内容をよく理解しておくこと

授業科目	造形表現（指導法）（授業45時間）	単位／時間	1／45
開講学科等	子ども未来学科1年	担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	一般教養的な基礎を指導した後、指人形制作や、絵本制作などを通じて、表現することの楽しさや実際の保育の現場で使用できる様々な技法を体験してもらう。最終的には、自分で創作した絵本の読み聞かせや、グループでのオリジナル作品の指人形劇まで持っていく。		
授業の到達目標	ものづくりを通じて技術指導だけでなく、指導者側の豊かな造形表現、ボキャボラリー、コミュニケーション能力を育てることを到達目標にしたい。		

授業の計画				
	1	保育園・幼稚園教育の基本「表現」領域の	26	・下描き
	2	ねらい及び内容並びに全体構造の理解	27	・制作
	3	「表現」領域のねらい及び内容、幼児が	28	〃
	4	身につけていく内容と指導上の留意点の	29	〃
	5	理解。保育園・幼稚園教育における評価の	30	〃
	6	理解など、教科書を通じて、必要な指導法	31	〃
	7	を学ぶことから、後の授業に繋げていく。	32	・オリジナル絵本 読み聞かせ発表会
	8	基礎デッサン（一般教養）	33	〃
	9	・グラデーション	34	実習造形報告
	10	・光と影	35	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	11	・形の捉え方ほか	36	クラス全員の前で報告、発表、
	12	指人形制作	37	その制作方法を学び合う。
	13	・グループに分かれてお話制作	38	〃
	14	・シナリオ制作・配役決定	39	〃
	15	・指人形制作	40	課外実習（高知県美術展覧会日程に合わせる）
	16	〃	41	・高知県美術展覧会見学
	17	〃	42	（高知市文化プラザかるぽーと）
	18	・指人形劇発表会	43	〃
	19	幼児造形の原理（映像を通じて）	44	振り返り
	20	〃	45	合評会
	21	手作り絵本制作	46	
	22	・たんたん画（技法の一例として）	47	
	23	〃	48	
	24	・様々な絵本に触れる	49	
	25	・お話作り	50	

授業の方法	子どもの姿が見える制作を通じて、必要なところで効果的に理論を配していけるよう指導
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学　造形表現（指導法）　モーネ工房　こども寺子屋
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30年。新しい技法を学ぶため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。

授業科目	子ども家庭福祉	単位／時間	2／30
開講学科等	福祉保育学科２年	担当教員	岡田　大輔
授業の目的・テーマ	児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学習するとともに、各種児童福祉施設の役割・機能及び児童・家庭福祉に関連する法制度等について理解を深める。		
授業の到達目標	子どもの権利について理解する。児童家庭福祉の様々な取り組みを理解し、児童家庭福祉にかかわる保育士、専門職としての職務・役割を理解する。		

授業の計画				
	1	現代社会と子ども家庭福祉	26	仕事と生活の調和
	2	少子高齢化と子ども	27	新たな少子化対策
	3	家族・地域の変化	28	児童家庭福祉の動向
	4	子ども家庭福祉の歴史	29	児童家庭福祉の展望
	5	海外における家庭福祉の歴史	30	まとめ
	6	日本における家庭福祉の歴史	31	
	7	子ども家庭福祉の理念と法律	32	
	8	子ども家庭福祉の理念	33	
	9	児童福祉に関する法律	34	
	10	子ども家庭福祉の機関と専門職	35	
	11	実施機関	36	
	12	子ども家庭福祉に関わる専門職	37	
	13	児童福祉施設	38	
	14	児童養護施設とは	39	
	15	児童養護施設の種類	40	
	16	子ども家庭福祉サービス	41	
	17	虐待の防止と支援	42	
	18	障害のある子どもへの支援	43	
	19	押し保健施策	44	
	20	保育サービス	45	
	21	保育所における保育サービス	46	
	22	認定こども園	47	
	23	認可外保育サービス	48	
	24	少子化対策と子育て支援	49	
	25	少子化対策の流れ	50	

授業の方法	講義　グループワーク
テキスト/参考文献	『児童家庭福祉』近畿大学九州短期大学テキスト
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度(出席状況を含む)、意欲、関心など
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	就労支援B型事業所／生活介護事業所支援員　通所介護事業所介護職員 放課後児童健全育成事業指導員
実務経験の活かし方	指導員・支援員としての実務経験をもとに障害児や児童のいる家庭に対する支援についての事例について取り上げます。
履修上の注意事項	テキストを持参すること

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）	単位／時間	２単位／９０時間
開講学科等	福祉保育学科３年	担当教員	徳弘　美穂
授業の目的・テーマ	この施設実習では、修得した科目全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童（利用者）に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。		
授業の到達目標	施設現場で養護と療育、支援を経験し、これまでに学んだ理論や技術がどうつながるか理解する。		

授業の計画				
1	児童福祉施設の内容・機能の理解		46	指導実習
	見学実習			担当保育者の指導を得た内容で
	・物的環境	地理的環境		児童の生活、プライバシーを尊重
		施設設備		した指導を行う。
	・人的環境	沿革や方針		
		児童、職員構成		
	観察実習			
	・子ども（利用者）の生活の様子			
	生活形態、保育形態			
	日課			
	・保育者、指導員の仕事			
	参加実習			
	・保育者、指導員の補助的活動			
	を通じて、保育を体験的に			
	理解する。			
				実習の振り返り
45			90	実習のまとめ

授業の方法	実習
テキスト/参考文献	「保育実習事前指導」近畿大学九州短期大学／知りたいときにすぐわかる実習ガイド
評価の方法や基準	現場からの実習評価票による
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	施設実習の目的をはっきりと自覚して実習の場に行くこと。 実習施設の目的・役割・機能などについて理解して実習に行くこと。

授業科目	社会福祉	単位／時間	2／30
開講学科等	子ども未来学科１年	担当教員	岡田　大輔
授業の目的・テーマ	保育士として必要な社会福祉に関する「体系的な理論と技術」を学ぶ。		
授業の到達目標	社会福祉のサービスの概要と必要性について学び、社会福祉に関する法制度や知識についての理解を深める。		

授業の計画				
	1	社会福祉とは	26	〃
	2	〃	27	社会福祉を担う人々
	3	日本の社会福祉の歴史	28	相談援助の目的と方法
	4	〃	29	社会福祉をめぐる課題
	5	社会保障制度と社会福祉を展開する組織	30	まとめ
	6	〃		
	7	子ども福祉		
	8	〃		
	9	障害者福祉		
	10	〃		
	11	高齢者福祉		
	12	〃		
	13	介護保険制度と専門職の役割		
	14	〃		
	15	低所得者福祉		
	16	〃		
	17	地域福祉		
	18	〃		
	19	医療福祉		
	20	〃		
	21	精神保健福祉		
	22	〃		
	23	社会福祉施設の役割		
	24	〃		
	25	社会福祉施設の役割		

授業の方法	講義
テキスト/参考文献	『コメディカルのための社会福祉概論』　第４版　講談社
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度(出席状況を含む)、意欲、関心など
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	就労支援B型事業所／生活介護事業所支援員　通所介護事業所介護職員 放課後児童健全育成事業指導員
実務経験の活かし方	介護職員や支援員としての実務経験をもとに障害者に対する社会福祉についての事例について取り上げます。
履修上の注意事項	

授業科目	図画工作Ⅱ（授業45時間）	単位／時間	1／45
開講学科等	子ども未来学科2年	担当教員	松田雅子
授業の目的・テーマ	2年生では、「何もないところから互いに話し合って協力し、一つのものを創り上げる」共同制作を通じて、さらにコミュニケーション能力を育む。また、実際の現場で様々な作品に触れることで幅広い鑑賞能力を培う。		
授業の到達目標	あらゆるジャンルに伸びてゆこうとする、こどもの芽をのびのびと伸ばすことのできる、幅広い視野を持った教育者、仲間と共に連携してこども達を見守って行けるコミュニケーション力を育てることを到達目標にしたい。		

授業の計画				
	1	身の回りにある廃材を使ってのものづくり	26	一から自分たちで話し合って
	2	・カード作り（包装紙などでコラージュ）	27	ひとつの作品を完成させる
	3	・おもちゃ作り	28	（例1）パネルを横にして、全て針金で
	4	（例1）砂をペットボトルに入れて作った	29	巨大遊園地を作る
	5	マラカス	30	（例2）パネルを縦にして、色紙ちぎり絵で、
	6	（例2）段ボール箱、ゴミ袋を使って作った	31	巨大イラストを完成させるなど
	7	獅子舞。	32	紙粘土でオリジナルキャラクター制作
	8	（例3）石膏ギブスを使ったお面など。	33	〃
	9	実際に遊んでみよう。	34	公園に行き、撮影。背景シチュエーションを
	10	作品鑑賞	35	考える。
	11	・校外学習（高知市文化プラザかるぽーと）	36	（例1）イチョウの落ち葉の中のイチョウ君
	12	〃	37	季節を知ろう！カレンダー制作
	13	※今年は11月24日開催の	38	・カレンダーから好きな季節を選ぶ
	14	「全国のパネルシアター劇団が高知に集結」	39	・その季節のイメージで、黒い用紙に
	15	鑑賞希望。	40	折り紙をちぎって季節を表現する。
	16	絵手紙を描いてみよう	41	⑧実習造形報告
	17	・野菜や果物を墨汁を筆を使って	42	・実習先で体験・制作、目にした造形作品を
	18	土佐和紙に描いてもらう。	43	クラス全員の前で報告、発表、
	19	※実際の保育現場では、園で育てたお芋を	44	その制作方法を学び合う。
	20	収穫した後、ふかして食べ、その後絵を描	45	⑨振り返り
	21	くなど生きた教育を行っているところも。	46	
	22	共同制作	47	
	23	真っ白いB１パネルを使用	48	
	24	・横にして造形作品にしても	49	
	25	・縦にして絵画作品にしても自由	50	

授業の方法	単に制作するだけでなく、発表の場を作って、コミュニケーション能力を育てる。
テキスト/参考文献	近畿大学九州短期大学　図画工作 保育科資料　モーネ工房　こども寺子屋
評価の方法や基準	創作の意欲、発想、態度、理論の理解、将来こどもと接する時のコミュニケーション能力。
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	こどもお絵描き教室を含む芸術指導歴30年。新しい技法を学ぶため、ワークショップにも積極的に参加。執筆、音楽、映像、食育など、ジャンルにこだわらない様々な表現活動を展開中。
実務経験の活かし方	実務経験におけるネットワーク作りを大切にし、こども達の心を育むものづくりの楽しさ、感動が、将来の指導者を通じてこども達に少しでも伝わるよう、アイデアを活かしている。
履修上の注意事項	食・睡眠時間の確保。生活の改善。

授業科目	医事コンピュータ理論	単位／時間	15
開講学科等	医療事務・医療秘書学科1年	担当教員	竹内　礼
授業の目的・テーマ	医療機関の事務系専門職として、急速にICT化が進む医療現場に対応できるよう、情報やコンピュータ活用の基礎知識を身につける。		
授業の到達目標	医事コンピュータ技能検定「領域Ⅱ（コンピュータ関連知識）」分野において、3級合格レベルのコンピュータ知識（ハード・ソフト両面）を身につける。		

授業の計画			
1	コンピュータの種類、情報表現		
2	ビットとバイト		
3	進数変換		
4	〈コンピュータと情報表現 復習〉		
5	コンピュータの5大装置と機能		
6	周辺装置		
7	入出力とインターフェース		
8	〈コンピュータの仕組みと動作 復習〉		
9	ソフトウェアの分類、OS		
10	Windowsの機能、ワープロソフトの活用		
11	〈ソフトウェア 復習〉		
12	検定過去問題の答練（領域II）		
13	〃		
14	〃		
15	〃		

授業の方法	講義、検定過去問題の演習
テキスト/参考文献	プリント／医事コンピュータ技能検定テキスト『改訂 医事コンピュータ関連知識』
評価の方法や基準	期末試験、チェックテスト、出席率、授業態度
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○
実務経験	システム会社での顧客サポート業務 （電子カルテおよび医事コンピュータの操作指導および導入サポート等）
実務経験の活かし方	電子カルテシステム等のインストラクション経験から得た、これからの医療現場で必要とされるコンピュータやネットワークの知識について、実例を踏まえながら講義をおこなう。
履修上の注意事項	

授業科目	介護事務(1／2)	単位／時間	72
開講学科等	医療事務・医療秘書学科２年	担当教員	西本　知代
授業の目的・テーマ	医療保険制度と介護保険制度の違いやしくみについて理解を深め、適正な介護報酬請求事務のできる事務スタッフとして高齢者介護福祉施設等で働けるように学習する。		
授業の到達目標	介護事務管理士検定の合格を目指し、介護事務の知識と正確な請求事務、レセプト作成ができるようになる。		

授業の計画				
	1	介護保険の特徴と目的、しくみ	26	居宅サービスの算定（特定施設入居者生活介護）
	2	サービス提供の流れ	27	〃　（福祉用具貸与）
	3	サービスの種類と内容（居宅サービス）	28	居宅サービスの介護レセプト
	4	〃　（通所サービス・福祉用具貸与）	29	〃
	5	〃　（支援サービス・施設サービス）	30	〃
	6	〃　（地域密着型サービス・市町村特別給付等）	31	〃
	7	サービスの提供機関	32	支援サービスの算定（居宅介護支援）
	8	支給限度額のしくみ	33	〃　（介護予防支援）
	9	給付管理業務のあらまし	34	施設サービスの算定（介護福祉施設）
	10	介護給付のケアプラン作成	35	〃　（　〃　）
	11	請求と支払いのしくみ、電子請求	36	〃　（外泊日の算定）
	12	利用者負担の種類・徴収方法	37	〃　（介護保健施設）
	13	保険料の滞納者に対するペナルティ	38	〃　（　〃　）
	14	利用者負担の軽減策	39	〃　（特別療養費）
	15	〃	40	〃　（介護療養施設）
	16	介護報酬の算定	41	〃　（特定診療費）
	17	居宅サービスの算定（訪問介護）	42	〃　（介護医療院）
	18	〃　（訪問入浴介護）	43	〃　（特別診療費）
	19	〃　（訪問看護）	44	施設サービスの介護レセプト
	20	〃　（訪問リハビリ）	45	〃
	21	〃　（居宅療養管理指導）	46	〃
	22	〃　（通所介護）	47	〃
	23	〃　（通所リハビリ）	48	地域密着型サービスの算定
	24	〃　（短期入所生活介護）	49	〃
	25	〃　（短期入所療養介護）	50	医療保険との関係

授業の方法	講義、プリントや過去問題の演習
テキスト/参考文献	介護保険制度のしくみ、介護報酬の算定方法、介護レセプトの書き方、サービスコード表、介護試験問題集、レポート集(ソラスト)
評価の方法や基準	提出課題、チェックテスト、定期試験、出席率、授業態度
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

授業科目	介護事務(2／2)	単位／時間	72
開講学科等	医療事務・医療秘書学科２年	担当教員	西本　知代
授業の目的・テーマ	医療保険制度と介護保険制度の違いやしくみについて理解を深め、適正な介護報酬請求事務のできる事務スタッフとして高齢者介護福祉施設等で働けるように学習する。		
授業の到達目標	介護事務管理士検定の合格を目指し、介護事務の知識と正確な請求事務、レセプト作成ができるようになる。		

授業の計画			
	51	公費負担医療との関係	
	52	ケーススタディ、主治医意見書作成料	
	53	過去問題演習①	
	54	〃	
	55	過去問題演習②	
	56	〃	
	57	過去問題演習③	
	58	〃	
	59	過去問題演習④	
	60	〃	
	61	過去問題演習⑤	
	62	〃	
	63	過去問題演習⑥	
	64	〃	
	65	過去問題演習⑦	
	66	〃	
	67	過去問題演習⑧	
	68	〃	
	69	過去問題演習⑨	
	70	〃	
	71	過去問題演習⑩	
	72	〃	

授業の方法	講義、プリントや過去問題の演習
テキスト/参考文献	介護保険制度のしくみ、介護報酬の算定方法、介護レセプトの書き方、サービスコード表、介護試験問題集、レポート集(ソラスト)
評価の方法や基準	提出課題、チェックテスト、定期試験、出席率、授業態度
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	
実務経験	
実務経験の活かし方	
履修上の注意事項	

法人所在地　高知市北本町１丁目１２番６号
法 人 名 称　学校法人　龍馬学園
代　表　者　理事長　佐竹　新市

理事（役員）名簿

（令和２年５月28日現在）

理事、監事の別	氏　名	就任日	任　期	備考
理事	佐竹　新市	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	
理事	佐竹　茂市	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	
理事	大平　康喜	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	学外者
理事	宮地　貴嗣	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	学外者
理事	泉田　優	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	
理事	芝　鉄夫	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	
理事	野町　裕	平成30年４月１日	校長在任期間中であれば任期なし	
監事	中坂　雄一	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	
監事	浜添　英章	令和２年５月28日	令和４年の定時理事会・評議員会終結時まで	

龍馬看護ふくし専門学校

ＧＰＡ制度に関する規定

（趣旨）

第１条 この規程は、龍馬看護ふくし専門学校におけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「ＧＰＡ」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を通じて、学生の学習意欲を喚起するとともに教員のきめ細やかな履修指導を推進し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

（評価等）

第２条 学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0

２ 前項の規定にかかわらず、再試験により取得した評価は成績（得点）の結果にかかわらず「C」評価としＧＰの値は「１」とする。

学生が他大学等で履修した授業科目等（以下「他大学等履修科目」という。）について、本学における履修とみなし単位を与える場合は、ＧＰＡの算出科目の対象とはしない。ただし、校長が必要と認める場合は、他大学等履修科目について、前項の規定に基づく成績の評価を行うことができるものとする。

（ＧＰＡの算出）

第３条 ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

（１）看護学科、福祉保育学科、子ども未来学科については（式１）を適用する。

$$（式1）\ GPA = \frac{（GP \times 単位数）の総和}{履修科目の総単位数}$$

（２）医療事務・医療秘書学科については（式２）を適用する。

$$（式2）\ GPA = \frac{（GP \times 時間数）の総和}{履修科目の総時間数}$$

（対象授業科目等）

第４条 本学の各専門課程で開講する全ての授業科目をＧＰＡの対象授業科目とする。

２ 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目に該当する場合は、ＧＰＡの対象外とする

（雑則）
第5条 この規程に定めるもののほか、GPAに関し必要な事項は、別に定める。

(1) 合否等により判定する授業科目
(2) 学校長がＧＰＡ算出除外科目として定める授業科目

GPA 算出の具体例

１．ＧＰＡ制度に関する規定の第２条の【表】を適用し科目別ＧＰの算出表<表１>を作成

<表1>科目別ＧＰ算出表　時間数：30 時間の場合

NO.	氏名	得点	評価	GP	ﾎﾟｲﾝﾄ
1	学生 1	86	A	3	90
2	学生 2	72	B	2	60
3	学生 3	75	B	2	60
4	学生 4	83	A	3	90
5	学生 5	55	D	0	0
6	学生 6	82	A	3	90
7	学生 7	71	B	2	60
8	学生 8	63	C	1	30
9	学生 9	90	A	3	90
10	学生 10	81	A	3	90
:	:	:	:	:	:

２．ＧＰＡ制度に関する規定の第３条の（式１）を適用しＧＰＡ算出表<表 2>を作成

<表２>GPA 算出表

NO.	氏名	総時間数	科目1	科目2	科目3	科目4	科目5	科目6	･･･	科目 N	GPA
1	学生 1	900	120	240	360	240	300	120	･･	480	2.25
2	学生 2	900	90	～	～	～	～	～	～	～	2.36
3	学生 3	900	90	～	～	～	～	～	～	～	2.21
4	学生 4	900	120	～	～	～	～	～	～	～	2.05
5	学生 5	900	30	～	～	～	～	～	～	～	1.95
6	学生 6	900	120	～	～	～	～	～	～	～	2.65
7	学生 7	900	90	～	～	～	～	～	～	～	2.52
8	学生 8	900	60	～	～	～	～	～	～	～	2.89
9	学生 9	900	120	～	～	～	～	～	～	～	2.48
10	学生 10	900	120	～	～	～	～	～	～	～	2.62
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

３．学生の成績分布状態の把握と下位４分の１の範囲を示すグラフ等の表示

<表３>　①<表 2>をもとに GPA の高い順に並べ替えを行う

順位	氏名：	GPA
:	:	:
30	学生 17	2.17
31	学生 36	2.15
32	学生 18	2.09
33	学生 25	2.08
34	学生 4	2.05
35	学生 23	2.05
36	学生 30	2.04
37	学生 22	1.96
38	学生 5	1.95
39	学生 14	1.88
40	学生 37	1.86

← 第１四分位数

下位４分の１

②四分位法を適用し下位４分の１の数値を求める

例）EXCEL 関数を適用し第１四分位数を求める

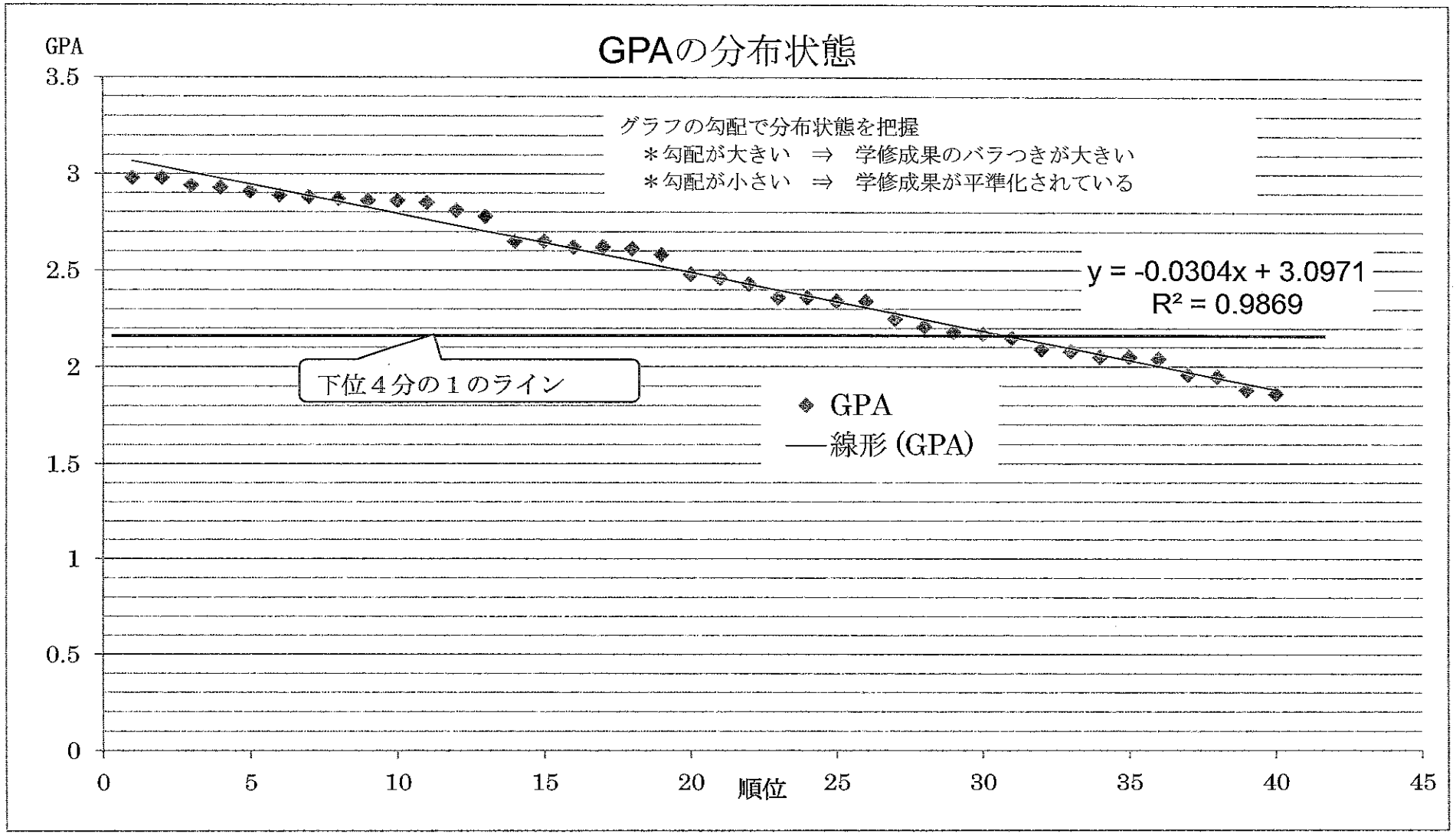
=QUARTILE($C$6:$C$45,1)

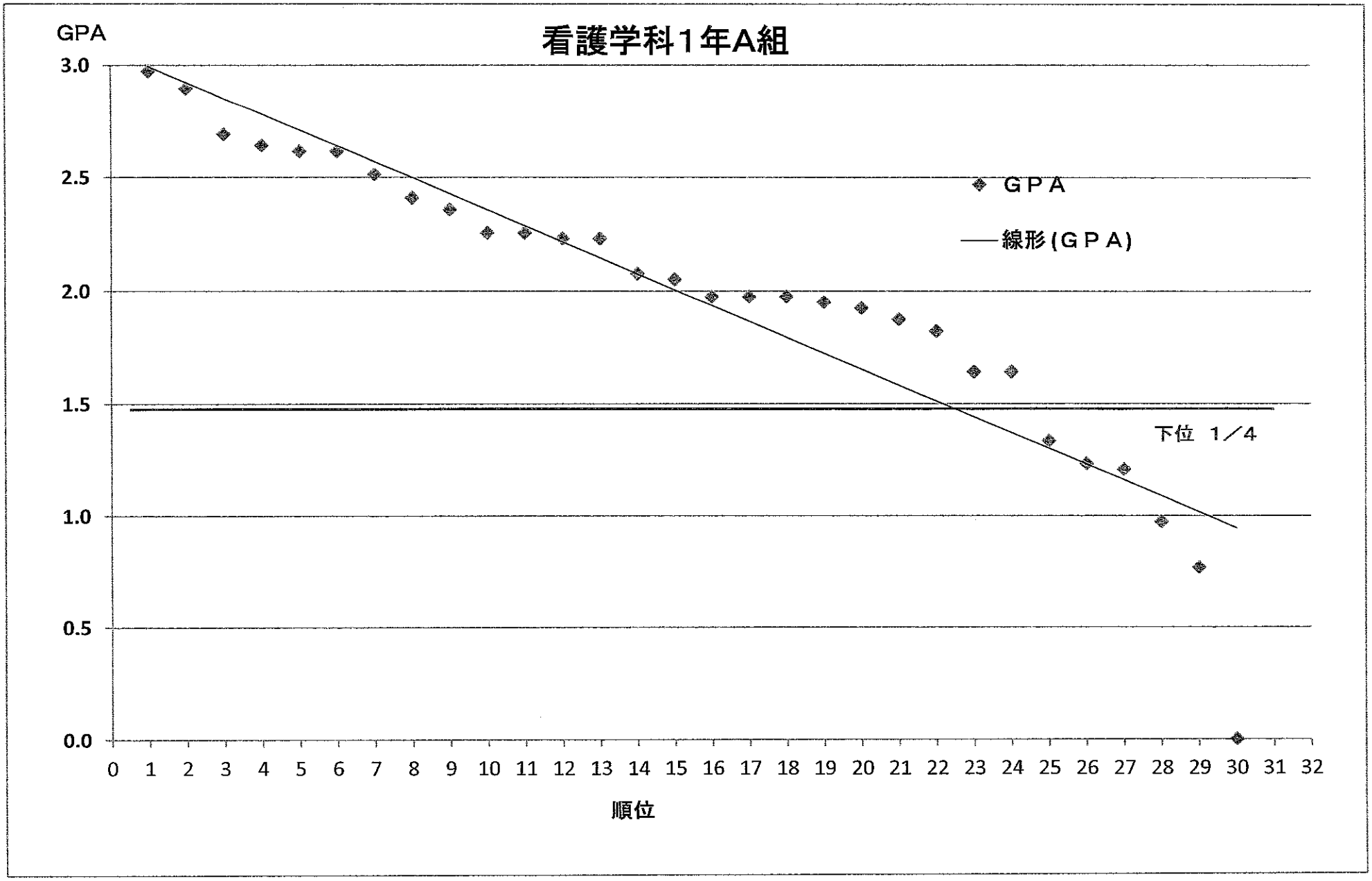
↓

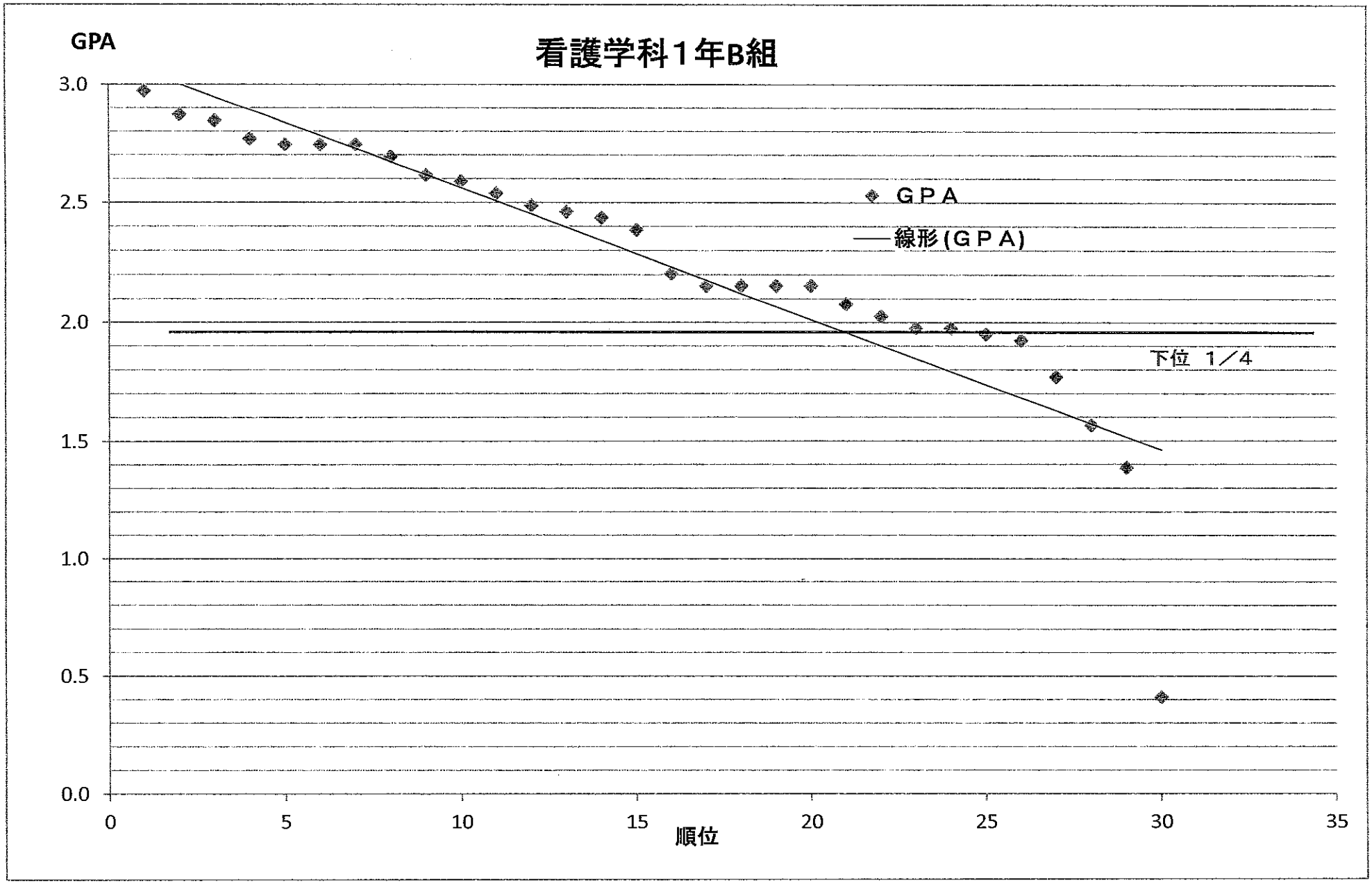
結果 ： 第1四分位数は、2.17

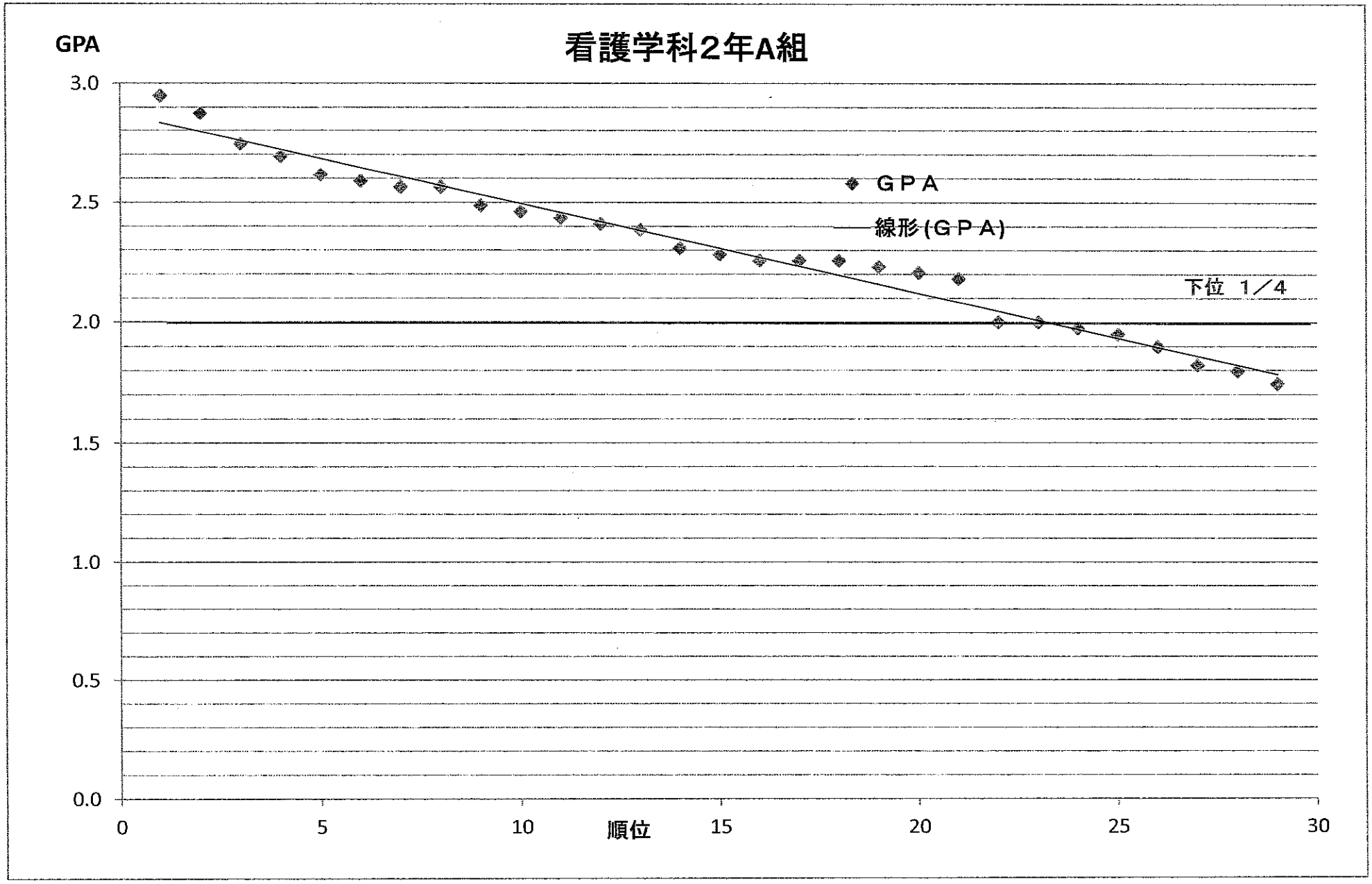
③第１四分位数の値をもとに下位4分１の学生の範囲を把握する

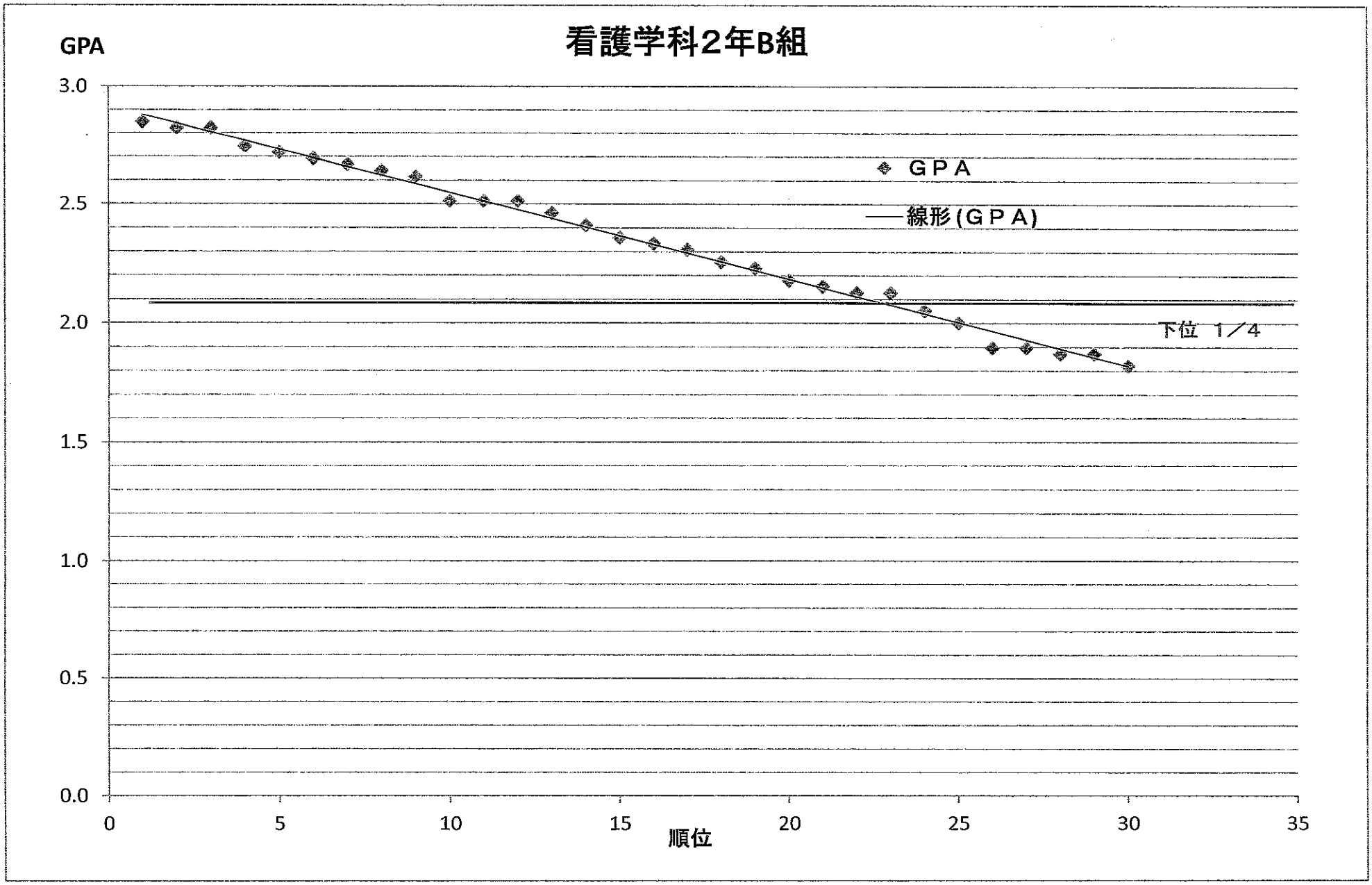
④〈表３〉をもとにＧＰＡの分布状態をグラフ化し、学生の学修成果のバラつき状態を把握
〈グラフ１〉

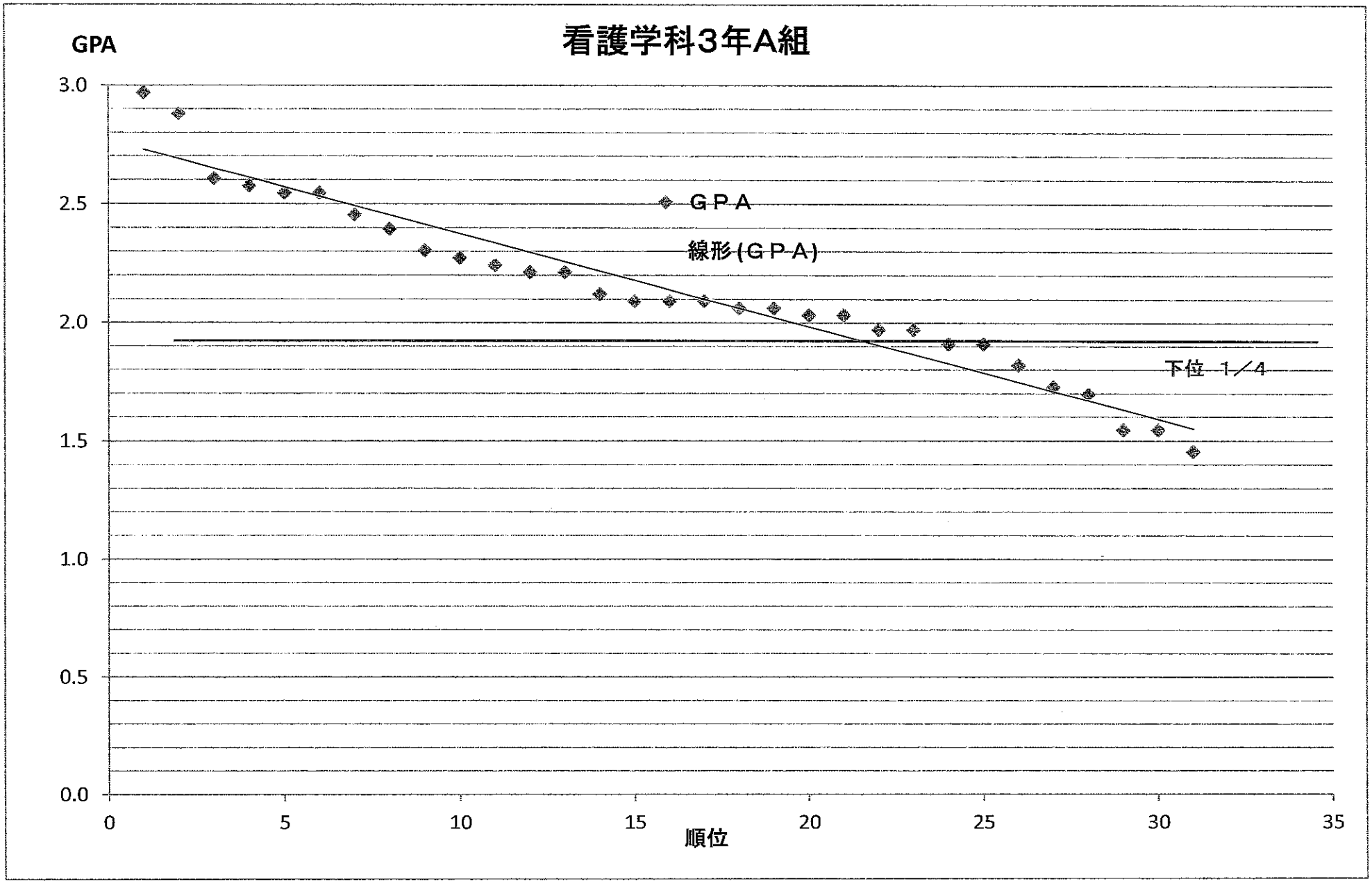


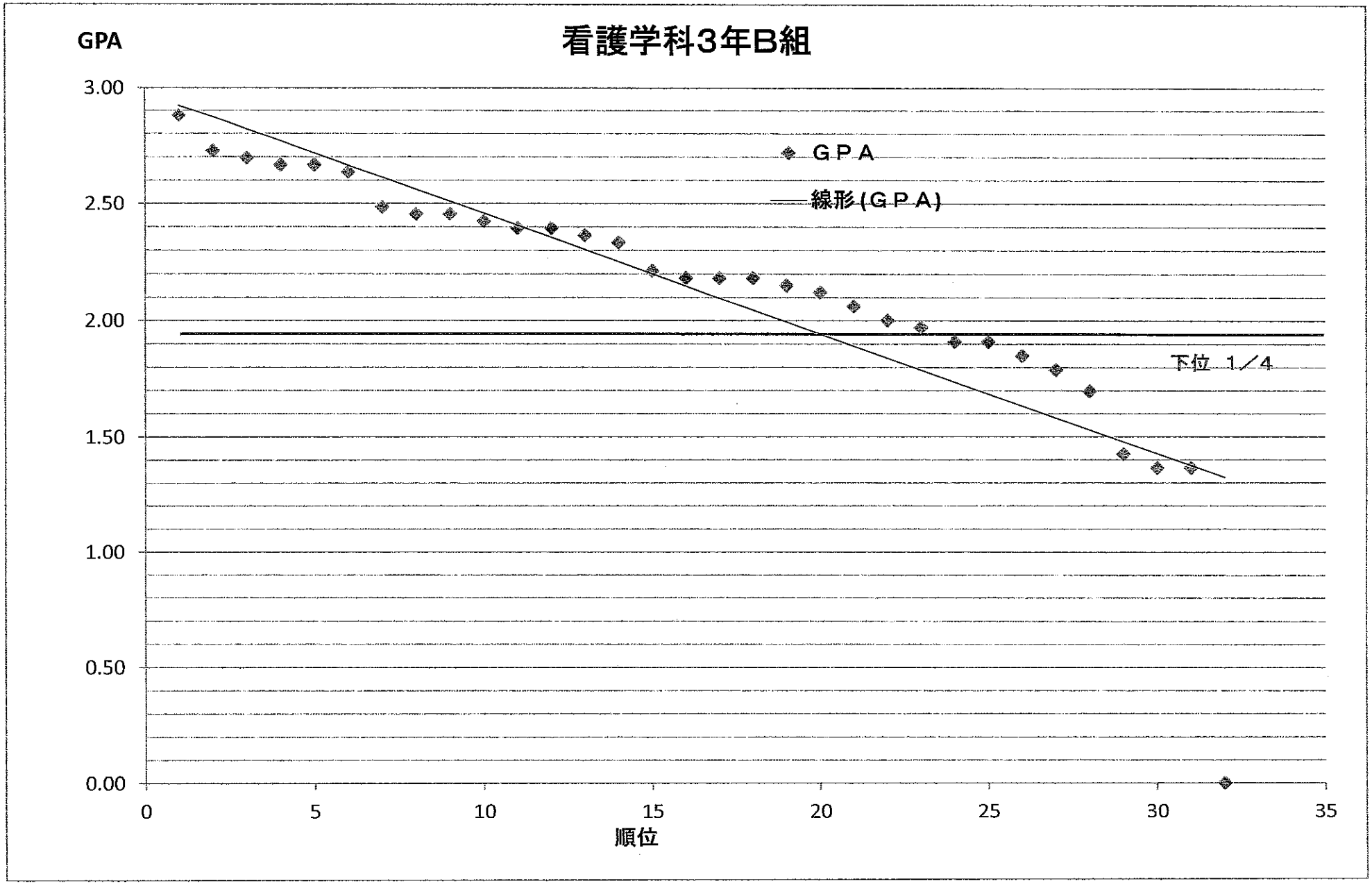

看護学科1年A組
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32
順位
GPA
線形(GPA)
下位 1／4

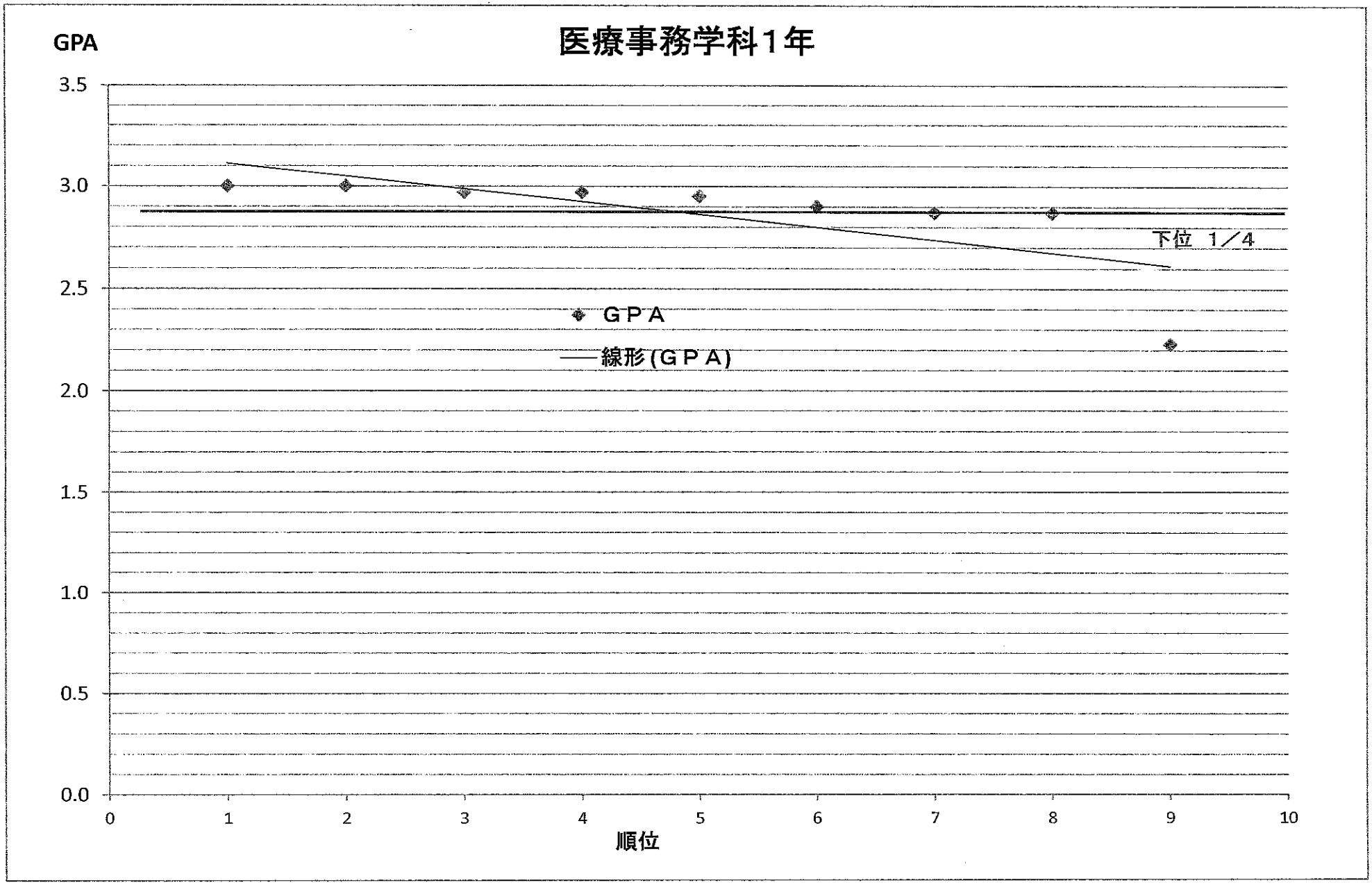

看護学科１年B組
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
35
順位
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4

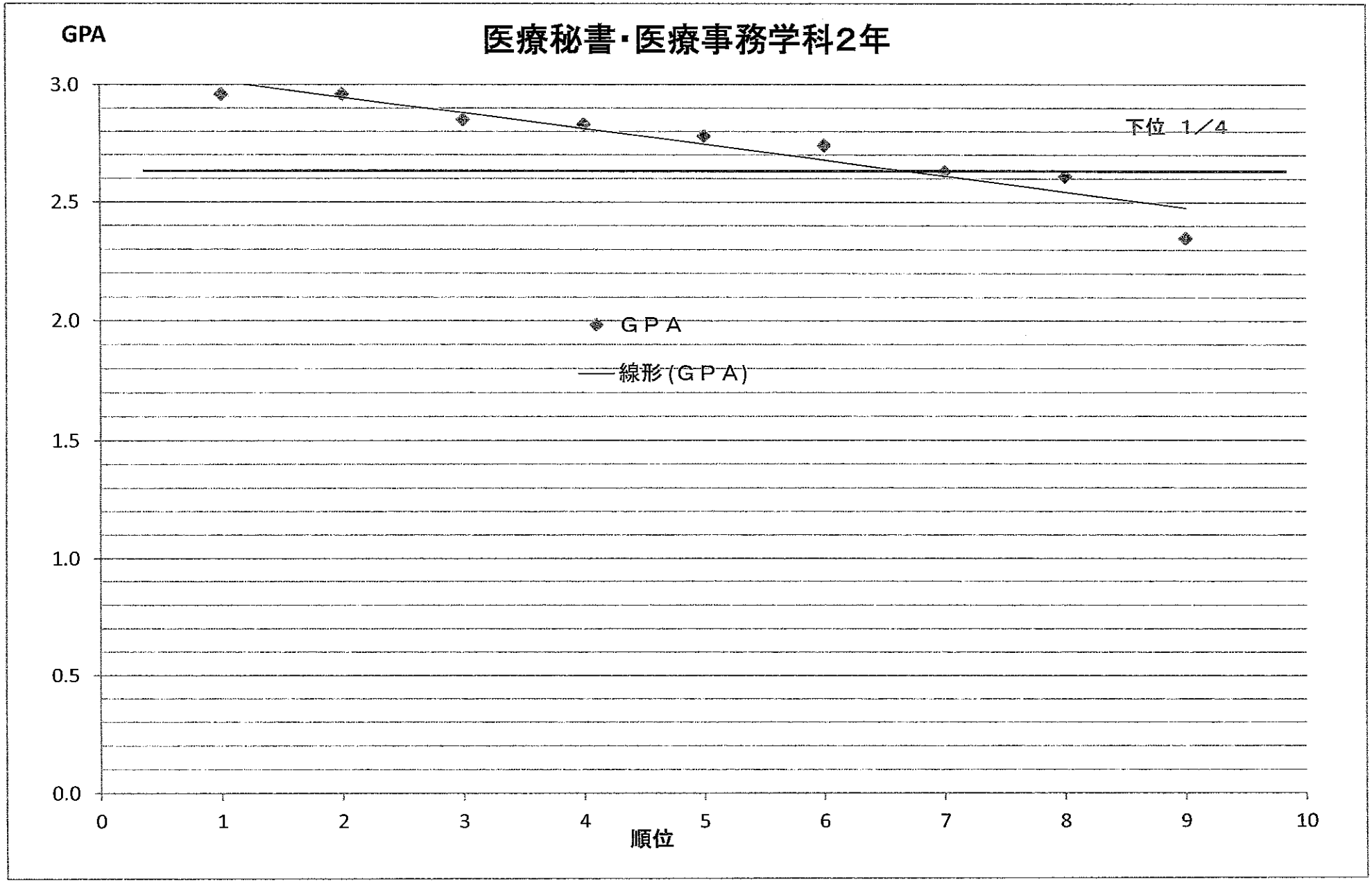

看護学科2年A組
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
順位
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4

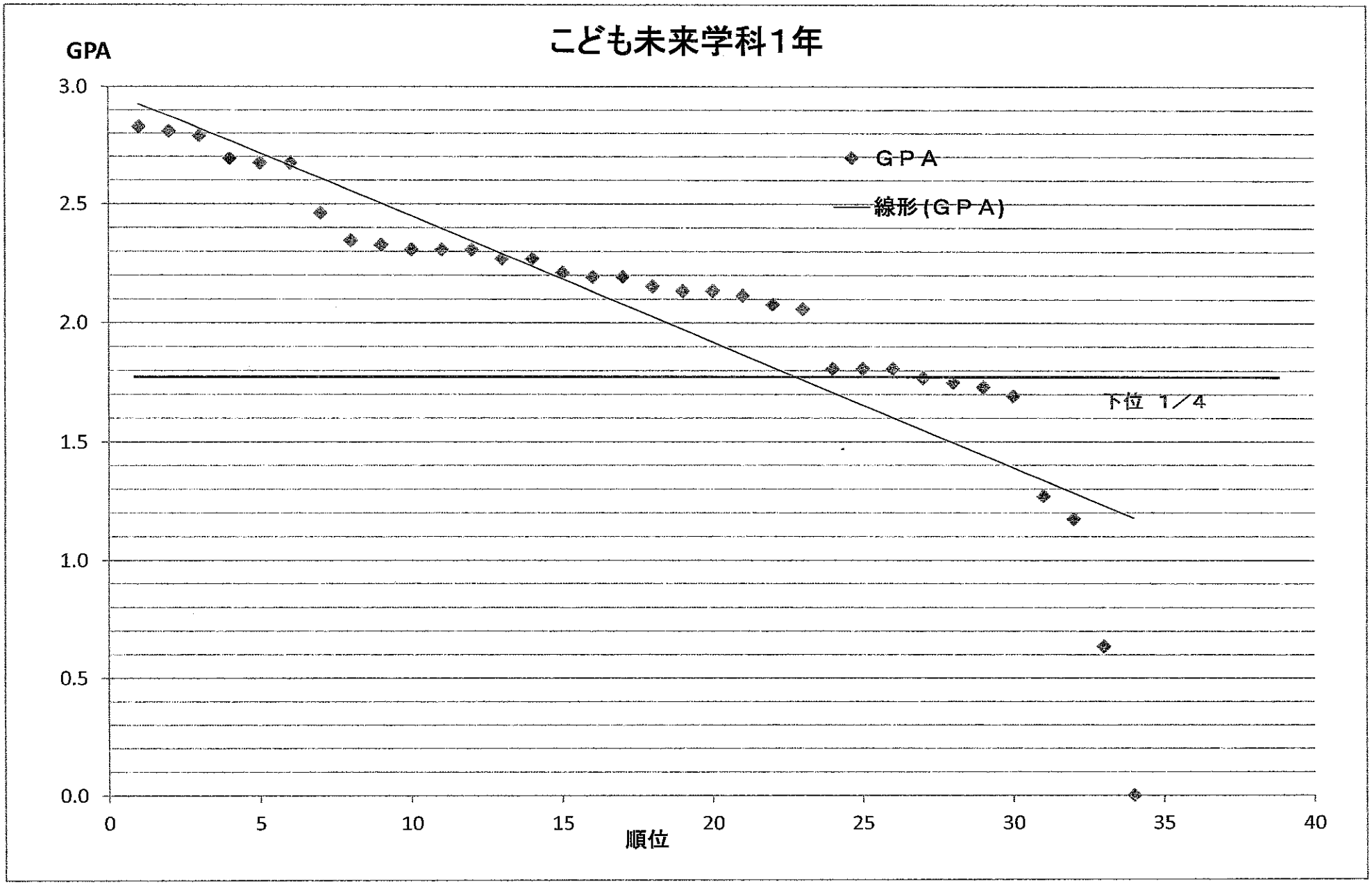

看護学科2年B組
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
35
順位
GPA
線形(GPA)
下位 1／4

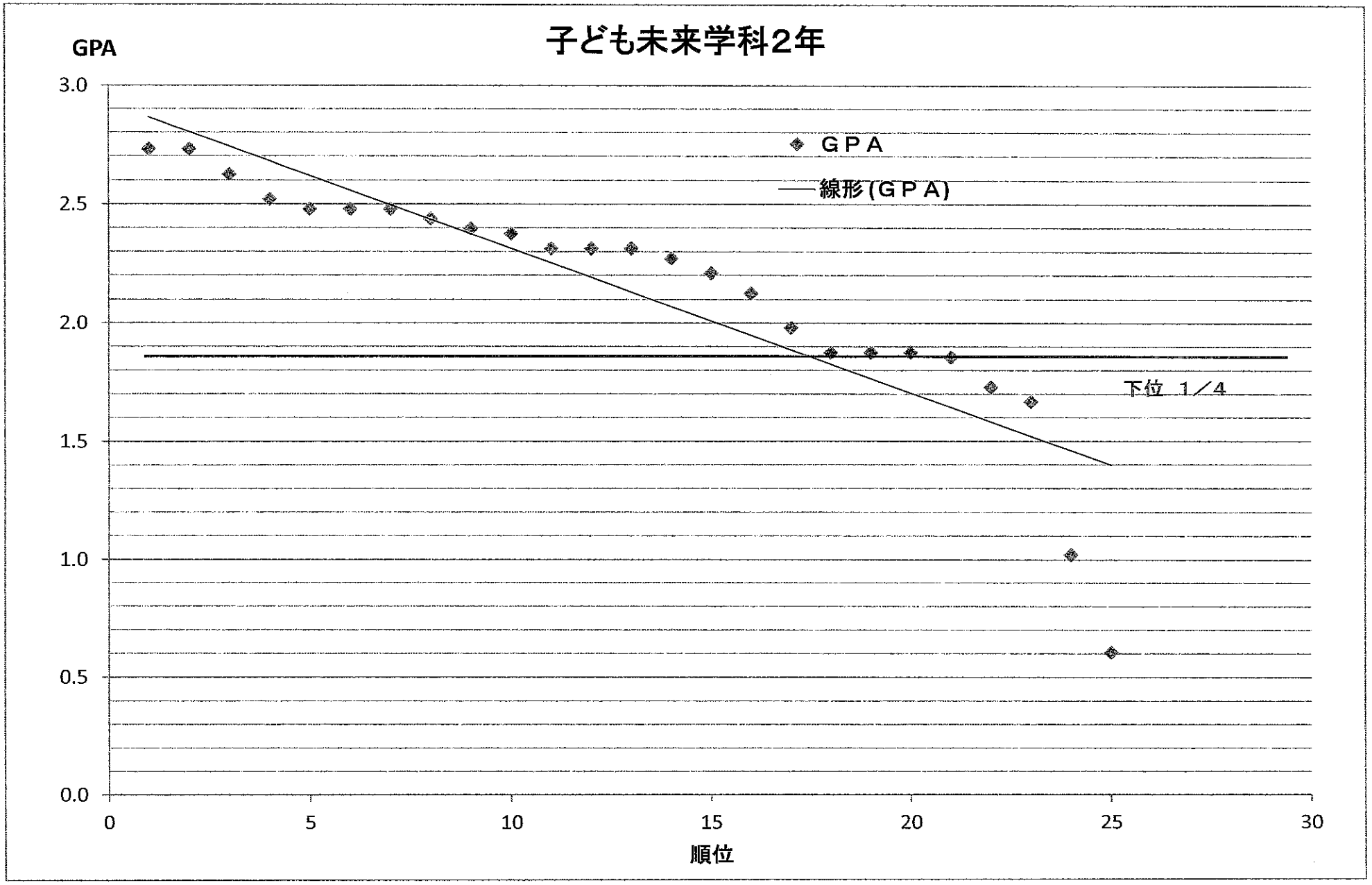

看護学科3年A組
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
35
順位
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4

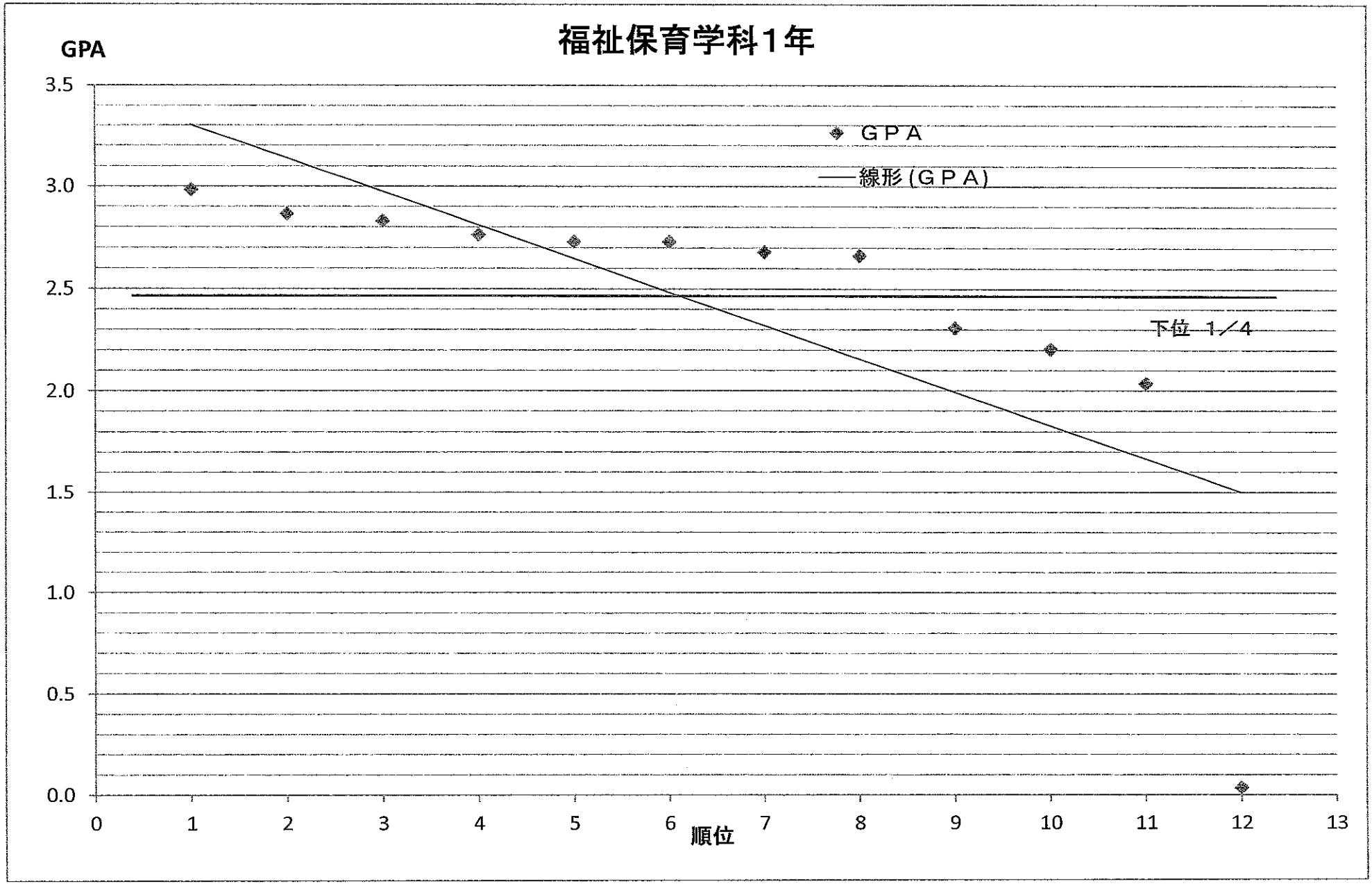

看護学科3年B組
GPA
3.00
2.50
2.00
1.50
1.00
0.50
0.00
0
5
10
15
20
25
30
35
順位
GPA
線形(GPA)
下位 1／4

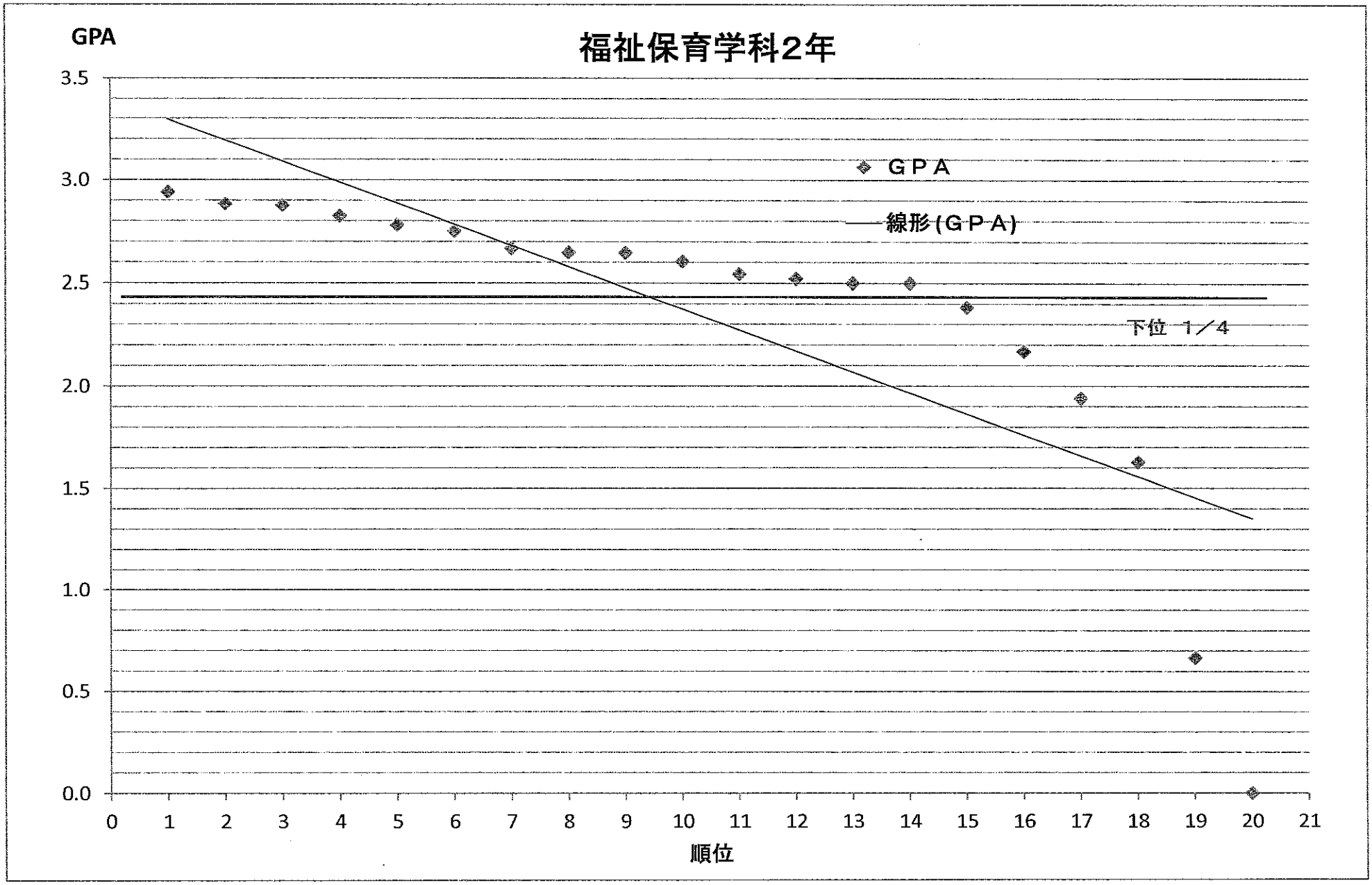

医療事務学科1年
GPA
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
順位
下位 1／4
GPA
線形(GPA)

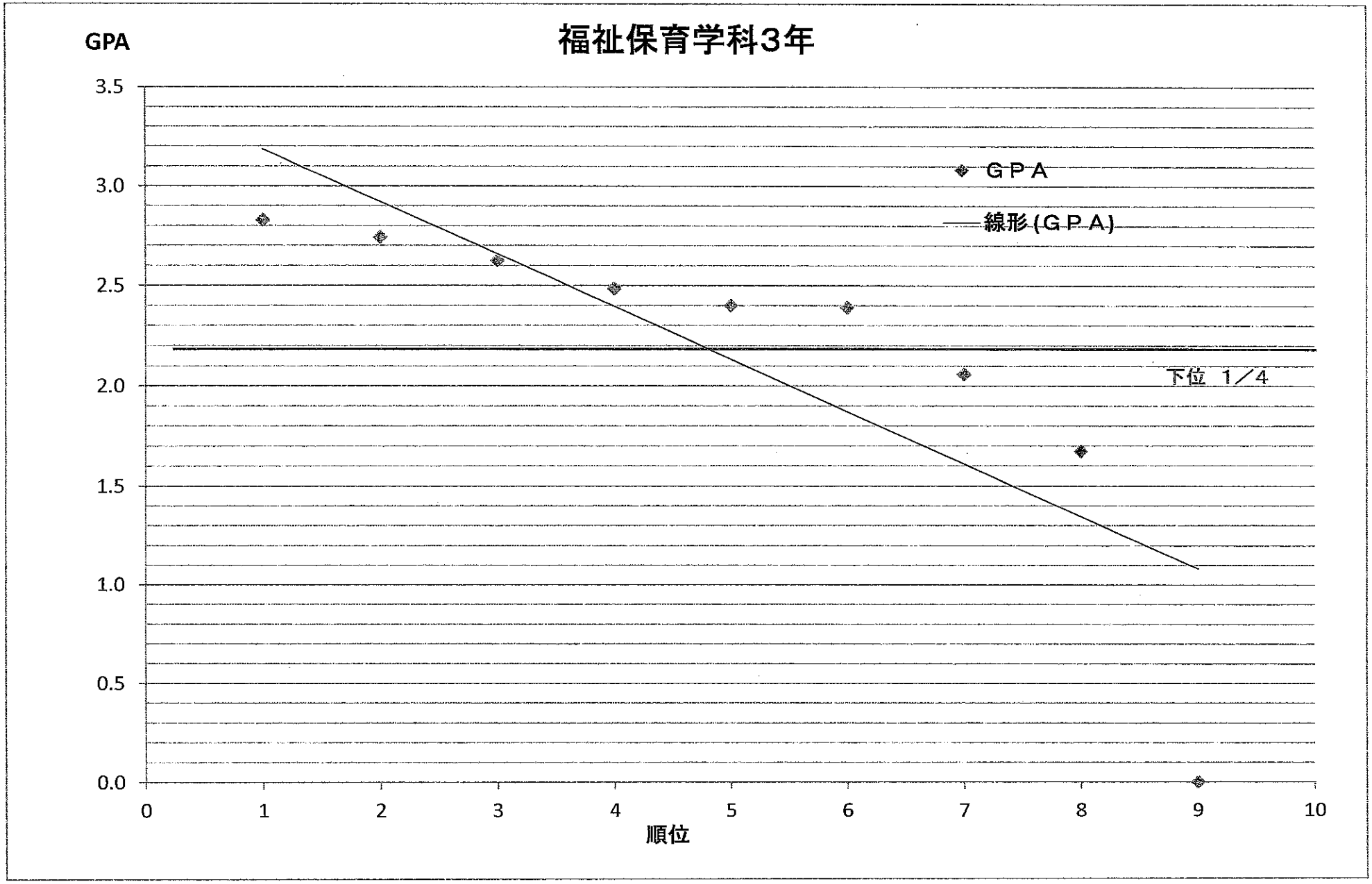

GPA
医療秘書・医療事務学科2年
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
下位 1／4
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
順位


こども未来学科1年
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
35
40
順位
GPA
線形(GPA)
下位 1／4


子ども未来学科2年
GPA
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
5
10
15
20
25
30
順位
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4


福祉保育学科1年
GPA
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
順位
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4


福祉保育学科2年
GPA
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
ＧＰＡ
線形(ＧＰＡ)
下位 1／4
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
順位


福祉保育学科3年
GPA
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
順位
ＧＰＡ
線形 (ＧＰＡ)
下位 1／4

添付資料

修学支援法案第７条第２項第２号の基準に適合することを示す資料

学校名	龍馬看護ふくし専門学校
設置者名	学校法人　龍馬学園

Ⅰ　直前３年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	1,048,061,020 円	1,025,021,192 円	23,039,828 円
申請２年度前の決算	1,024,534,041 円	1,037,620,941 円	△13,086,900 円
申請３年度前の決算	1,010,284,882 円	1,060,244,512 円	△49,959,630 円

Ⅱ　直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	237,663,727 円	2,369,951,312 円	△2,132,287,585 円

Ⅲ　申請校の直近３年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足(F)/(E)
今年度	460	295	64%
前年度	460	309	67%
前々年度	460	320	69%

「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目	本年度末	内容
現金預金	227,571,739 円	
有価証券	10,091988 円	

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目	本年度末	内容
長期借入金	2,055,172,414 円	
学校債	98,200,000 円	
長期未払金	3,933,144 円	リース未払金
短期借入金	44,827,586 円	
１年以内償還予定学校債	145,000,000 円	
未払金	22,818,168 円	

事業活動収支計算書

平成３１年　４月　１日　から
令和　２年　３月３１日　まで

（単位：円）

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(948,480,000)	(935,586,491)	(12,893,509)
		手数料	(15,290,000)	(13,286,880)	(2,003,120)
		寄付金	(0)	(0)	(0)
		経常費等補助金	(22,000,000)	(23,674,791)	(△1,674,791)
		付随事業収入	(46,000,000)	(62,799,101)	(△16,799,101)
		雑収入	(6,820,000)	(12,241,385)	(△5,421,385)
		教育活動収入計	1,038,590,000	1,047,588,648	△8,998,648
	事業活動支出の部	人件費	(562,222,000)	(567,050,742)	(△4,828,742)
		教育研究経費	(283,908,000)	(276,096,257)	(7,811,743)
		管理経費	(149,461,000)	(136,337,830)	(13,123,170)
		徴収不能額等	(0)	(0)	(0)
		教育活動支出計	995,591,000	979,484,829	16,106,171
		教育活動収支差額	42,999,000	68,103,819	△25,104,819
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(472,372)	(427,628)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
		教育活動外収入計	900,000	472,372	427,628
	事業活動支出の部	借入金等利息	(41,322,000)	(45,536,363)	(△4,214,363)
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)
		教育活動外支出計	41,322,000	45,536,363	△4,214,363
		教育活動外収支差額	△40,422,000	△45,063,991	4,641,991
		経常収支差額	2,577,000	23,039,828	△20,462,828
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(0)	(1,736,000)	(△1,736,000)
		特別収入計	0	1,736,000	△1,736,000
	事業活動支出の部	資産処分差額	(0)	(2)	(△2)
		その他の特別支出	(0)	(521,100)	(△521,100)
		特別支出計	0	521,102	△521,102
		特別収支差額	0	1,214,898	△1,214,898
		予備費	(0)		
		基本金組入前当年度収支差額	2,577,000	24,254,726	△21,677,726
		基本金組入額合計	△140,000,000	△119,883,713	△20,116,287
		当年度収支差額	△137,423,000	△95,628,987	△41,794,013
		前年度繰越収支差額	△2,810,546,364	△2,810,546,364	0
		基本金取崩額	0	0	0
		翌年度繰越収支差額	△2,947,969,364	△2,906,175,351	△41,794,013

事業活動収支計算書

平成３０年　４月　１日　から
平成３１年　３月３１日　まで

（単位：円）

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(942,200,000)	(923,607,000)	(18,593,000)
		手数料	(15,290,000)	(13,265,240)	(2,024,760)
		寄付金	(0)	(0)	(0)
		経常費等補助金	(20,000,000)	(25,971,844)	(△5,971,844)
		付随事業収入	(46,000,000)	(50,568,188)	(△4,568,188)
		雑収入	(6,820,000)	(10,584,999)	(△3,764,999)
		教育活動収入計	1,030,310,000	1,023,997,271	6,312,729
	事業活動支出の部	人件費	(566,740,000)	(579,643,341)	(△12,903,341)
		教育研究経費	(282,627,000)	(272,591,969)	(10,035,031)
		管理経費	(136,840,000)	(140,432,044)	(△3,592,044)
		徴収不能額等	(0)	(83,405)	(△83,405)
		教育活動支出計	986,207,000	992,750,759	△6,543,759
		教育活動収支差額	44,103,000	31,246,512	12,856,488
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(536,770)	(363,230)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
		教育活動外収入計	900,000	536,770	363,230
	事業活動支出の部	借入金等利息	(43,189,000)	(44,870,182)	(△1,681,182)
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)
		教育活動外支出計	43,189,000	44,870,182	△1,681,182
		教育活動外収支差額	△42,289,000	△44,333,412	2,044,412
		経常収支差額	1,814,000	△13,086,900	14,900,900
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(0)	(0)	(0)
		特別収入計	0	0	0
	事業活動支出の部	資産処分差額	(0)	(6)	(△6)
		その他の特別支出	(0)	(171,036)	(△171,036)
		特別支出計	0	171,042	△171,042
		特別収支差額	0	△171,042	171,042
		予備費	(0)		
		基本金組入前当年度収支差額	1,814,000	△13,257,942	15,071,942
		基本金組入額合計	△140,000,000	△139,040,671	△959,329
		当年度収支差額	△138,186,000	△152,298,613	14,112,613
		前年度繰越収支差額	△2,679,247,751	△2,679,247,751	0
		基本金取崩額	0	21,000,000	△21,000,000
		翌年度繰越収支差額	△2,817,433,751	△2,810,546,364	△6,887,387

事業活動収支計算書

平成２９年　４月　１日　から
平成３０年　３月３１日　まで

（単位：円）

		科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(914,340,000)	(869,793,500)	(44,546,500)
		手数料	(15,290,000)	(14,375,260)	(914,740)
		寄付金	(0)	(0)	(0)
		経常費等補助金	(20,000,000)	(26,634,425)	(△6,634,425)
		付随事業収入	(61,200,000)	(87,737,507)	(△26,537,507)
		雑収入	(6,050,000)	(10,766,437)	(△4,716,437)
		教育活動収入計	1,016,880,000	1,009,307,129	7,572,871
	事業活動支出の部	人件費	(544,080,000)	(569,356,311)	(△25,276,311)
		教育研究経費	(283,086,000)	(284,394,591)	(△1,308,591)
		管理経費	(134,065,000)	(153,829,586)	(△19,764,586)
		徴収不能額等	(0)	(390,000)	(△390,000)
		教育活動支出計	961,231,000	1,007,970,488	△46,739,488
		教育活動収支差額	55,649,000	1,336,641	54,312,359
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(977,753)	(△77,753)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
		教育活動外収入計	900,000	977,753	△77,753
	事業活動支出の部	借入金等利息	(56,113,000)	(52,274,024)	(3,838,976)
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)
		教育活動外支出計	56,113,000	52,274,024	3,838,976
		教育活動外収支差額	△55,213,000	△51,296,271	△3,916,729
		経常収支差額	436,000	△49,959,630	50,395,630
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(0)	(246,351)	(△246,351)
		特別収入計	0	246,351	△246,351
	事業活動支出の部	資産処分差額	(0)	(2,022,049)	(△2,022,049)
		その他の特別支出	(0)	(470,201)	(△470,201)
		特別支出計	0	2,492,250	△2,492,250
		特別収支差額	0	△2,245,899	2,245,899
		予備費	(0)		
		基本金組入前当年度収支差額	436,000	△52,205,529	52,641,529
		基本金組入額合計		△177,239,888	177,239,888
		当年度収支差額	436,000	△229,445,417	229,881,417
		前年度繰越収支差額	△2,449,802,334	△2,449,802,334	0
		基本金取崩額	0	0	0
		翌年度繰越収支差額	△2,449,366,334	△2,679,247,751	229,881,417

貸借対照表

令和　２年　３月３１日

（単位：円）

資産の部			
科　　目	前年度末	本年度末	増　減
固定資産	(4,215,489,794)	(4,132,068,909)	(△83,420,885)
有形固定資産	(4,095,286,390)	(4,019,288,505)	(△75,997,885)
土地	2,144,800,261	2,144,800,261	0
建物	1,842,246,562	1,785,037,905	△57,208,657
その他有形固定資産	108,239,567	89,450,339	△18,789,228
特定資産	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産	(120,203,404)	(112,780,404)	(△7,423,000)
有価証券	15,591,988	10,091,988	△5,500,000
その他固定資産	104,611,416	102,688,416	△1,923,000
流動資産	(335,245,572)	(352,039,618)	(16,794,046)
現金預金	265,312,866	227,571,739	△37,741,127
その他流動資産	69,932,706	124,467,879	54,535,173
資産の部合計	4,550,735,366	4,484,108,527	△66,626,839

負債の部			
科　　目	前年度末	本年度末	増　減
固定負債	(1,344,084,027)	(2,188,228,497)	(844,144,470)
長期借入金	1,098,573,896	2,055,172,414	956,598,518
学校債	208,000,000	98,200,000	△109,800,000
長期未払金	8,766,288	3,933,144	△4,833,144
退職給与引当金	28,743,843	30,922,939	2,179,096
流動負債	(1,724,550,412)	(789,524,377)	(△935,026,035)
短期借入金	1,078,750,094	44,827,586	△1,033,922,508
１年以内償還予定学校債	38,500,000	145,000,000	106,500,000
未払金	21,551,573	22,818,168	1,266,595
前受金	567,646,050	559,015,320	△8,630,730
預り金	18,102,695	17,863,303	△239,392
負債の部合計	3,068,634,439	2,977,752,874	△90,881,565

純資産の部			
科　　目	前年度末	本年度末	増　減
基本金	(4,292,647,291)	(4,412,531,004)	(119,883,713)
第１号基本金	4,213,647,291	4,333,531,004	119,883,713
第４号基本金	79,000,000	79,000,000	0
繰越収支差額	(△2,810,546,364)	(△2,906,175,351)	(△95,628,987)
翌年度繰越収支差額	△2,810,546,364	△2,906,175,351	△95,628,987
純資産の部合計	1,482,100,927	1,506,355,653	24,254,726
負債及び純資産の部合計	4,550,735,366	4,484,108,527	△66,626,839

学校法人龍馬学園
龍馬看護ふくし専門学校

設置学科一覧

課程名	学科名	入学定員	総定員	修業年限	昼夜の別	備考
医療専門課程	看護学科	６０名	１８０名	３年	昼間	大学併修（希望者）
医療専門課程	医療事務・医療秘書学科	４０名	８０名	２年	昼間	
教育・社会福祉専門課程	福祉保育学科	４０名	１２０名	３年	昼間	短期大学併修
教育・社会福祉専門課程	子ども未来学科	４０名	８０名	２年	昼間	短期大学併修